

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
英会話 I				こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	15	1	紅林 江身子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
近年、ネイティブ講師を交え簡単な英語表現を経験させる園などが増えつつある中で、そのことを念頭におきつつ、保育士の立ち位置や役割を踏まえ、保育士各々の英語力アップを図る。					
授 業 の 概 要					
コミュニケーションの必要性重要性を個々が再認識し、英語力をつけた際の可能性を考える。 中学レベルの英語文法の復習、フォニックスの学習。保育の為の基礎英語力をつける。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験（文法、フレーズ、単語など）による評価。 学習意欲の評価として ・コミュニケーション能力での評価。 （日本語でも自分の意見や考えアイディアなどを出せる。他の生徒とシェアできる） ・英語でのコミュニケーション能力での評価。 （拙い英語でも、相手に伝えようとする姿勢や、聴こうとする力） ・授業態度や、英語学習への意欲や積極性への評価 を加味する					期末試験 50% 課 題 20% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ Happy English for childcare (KINSEIDO) ・ 中学3年分をたった7日で総復習（学研プラス）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. 中学英語復習、フォニックス ・ 文の構成と語順 ・ 時制（現在形、進行形、過去形など） ・ 文の種類（肯定文、否定文、疑問文など） ・ 前置詞、接続詞など	時間数				時間数
	13				
	2				
その他		関連科目			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K02
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
健康科学			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	15	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができる。 ・ 期末試験の設題にもなっている8項目の内容を理解し、説明することができる。 ・ 幼児期の運動能力の特徴を理解し、運動と健康の在り方を追求する。					
授 業 の 概 要					
テキストを中心に授業を展開し、授業内容の設題8項目に対して科学的な健康づくりを学んでいく。 また、幼児期運動指針の内容にも触れ、発達や個人差を踏まえた幼児期の運動と健康の在り方について追及していく。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験はテキストの内容を理解した上で、設題に対する自らの考察や課題提起、経験等を記述した内容の充実度に評価の重点を置く。 レポート課題は、収集した情報を活用しながら自らのスポーツに対する考え方に繋いでいく展開力を評価する。					期末試験 60% レポート 30% 学習意欲 10%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
テキスト「生涯スポーツ・健康科学」(近畿大学九州短期大学) 幼児期運動指針策定委員会「幼児期運動指針ガイドブック」(文部科学省) ※プリントを配布 「保育園における危険予知トレーニング」(田中哲郎、日本小児医事出版社) ※プリントを配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. スポーツの概念		2	6. 幼児期運動指針について		2
2. 社会生活の変化とスポーツ		2	7. 幼児期の運動能力と測定方法		2
3. スポーツ参加の現状と課題		2	8. 生活におけるトレーニング		1
4. 健康の概念		2			
5. 健康・体力と運動		2			
その他			関連科目		
			生涯スポーツ		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K03
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
情報処理入門 I			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	15	1	島田 幸紀	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
保育・教育の分野でICTのスムーズな活用を行うために、コンピュータのデータ表現、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティについて理解できるようになる。						
授 業 の 概 要						
情報リテラシー I で学んだことを基礎に、ICT の今後の活用について学ぶ。 また、PowerPoint の基礎と有効な活用方法について演習する。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業内での課題と参加度（学習意欲）を総合的に評価する。					課 題	70%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
保育者のためのパソコン講座（阿部正平・阿部和子・二宮祐子 著）萌文書林出版						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. プレゼンテーションを学ぼう			時間数			時間数
■プレゼンテーションとは			2	■園での様々なコミュニケーション		
■PowerPoint の基本操作				・ ICT を活用したコミュニケーションの紹介		1
Unit1 プレゼンテーションをやってみよう				・ 関連する 法律		1
■基本操作の習得			2			
■応用			2			
■発表			1			
2. パソコンリテラシーと情報倫理を学ぼう						
■保育の管理業務でのソフトの活用			1			
■文書ファイルやデータの適切な管理						
・ ファイル名称の標準化			1			
・ ファイルの破損、消失と分散のリスク対策			1			
・ 情報漏洩対策			1			
・ ネットワーク・リスク対策			1			
その他				関連科目		
				情報リテラシー I ・ II ・ III 情報処理入門 I S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K04	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
日本国憲法			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	堀 保彦
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
憲法を体系的に修得するとともに、現代社会における憲法問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べることができるようになることを本授業の目標とします					
授 業 の 概 要					
日本国憲法は、国民の自由と権利を守り、自由で公正な社会を築くことを目指す法です。本授業では、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概観し、私たちと憲法の関わりについて考えます。最終回の授業で現代社会における憲法の問題点についてプレゼンテーションをしていただきます。					
成 績 評 価 の 方 法					
①毎回の授業で実施する演習課題への取り組み（学習意欲）30%				学習意欲	30%
②日本国憲法の理解度（期末試験）50%、				期末試験	50%
③憲法問題に対する主体的考察力（プレゼンテーション）20%、				プレゼン	20%
の3項目を総合した点数で評価する。					
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
教科書：『日本国憲法』 下村孝（近畿大学九州短期大学通信教育部）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
	時間数		時間数		
1. 憲法とは何か	2	8. 精神的自由権	2		
2. 明治憲法から日本国憲法へ	2	9. 表現の自由のその制約	2		
3. 国民主権と象徴天皇制	2	10. 経済的自由権	2		
4. 平和主義	2	11. 社会権	2		
5. 基本的人権総論	2	12. 人身の自由・国務請求権	2		
6. 日本国憲法における人権保障	2	13. 参政权・国民の義務	2		
7. 包括的基本権	2	14. 統治機構の原理、議会制度・	2		
		権力分立			
		15. プレゼンテーション（現代社会における憲法の問題点について）	2		
その他			関連科目		
各回授業で講義内容を理解するための演習課題を実施する。					

シラバス (授 業 概 要)				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K05	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
情報リテラシー I			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	30	1	深澤 みほ		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
タイピングの基礎として WP 検定を受験する。Word・Excel の簡単な基本操作ができるようになる。							
授 業 の 概 要							
パソコンの基本的な操作を学ぶ。効率的なタイピングの方法を練習し、WP 検定の対策を実施する。							
成 績 評 価 の 方 法							
課題、学習意欲を総合的に評価する。						課 題	70%
						学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
・ 保育者のためのパソコン講座 (阿部正平・阿部和子・二宮祐子 著) 萌文書林出版							
・ ワープロ検定対策テキスト 日本情報処理検定協会							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. パソコンのしくみを学ぼう			時間数				時間数
Unit1 フォルダーとファイルになれよう			1	Unit5 図表が入ったお便りを作ろう			2
■ ドライブ名とフォルダーの仕組み				3. 表計算ソフトの機能と操作を学ぼう			
■ ファイルの仕組み				■ Excel とは・基本操作			2
■ フォルダーの操作				Unit6 作表と簡単な計算をしよう			2
■ ファイルの操作				Unit7 児童台帳を作成しよう			3
2. ワープロソフトの機能と操作を学ぼう				Unit8 グラフと計算式			2
■ Word とは・基本操作			1	4. WP 検定対策			
■ ページ設定							10
Unit2 文書の構成							
■ テキスト, 表 (簡易表)			2				
■ 図形 (簡易図形, イラスト) 画像			1				
Unit3 簡単なお便りを作成しよう			2				
Unit4 ビジュアルコンテンツを作ろう			2				
その他				関連科目			
※単元ごと演習課題を実施する。				情報リテラシーⅡ・Ⅲ 情報処理入門Ⅰ 情報処理入門ⅠS			

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K06
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
情報リテラシーⅡ			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	梅原 萌子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
Microsoft Office の Word の操作及び実習を通して、それぞれのアプリケーションの理解を深め、検定合格を目指す。Word のメニューを使いこなし、最終目標として検定に合格するために、総合的な理解ができることが重要である。						
授 業 の 概 要						
MOS 試験範囲を確認しながら、各单元ごと理解度をチェックしていく。 模擬問題も繰り返し学習し、制限時間内 (50 分) に、検定合格目標ライン (80%) に到達できるように理解力を深める。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業内での課題・小テスト・参加態度(学習意欲) を総合的に評価する。					課 題	40%
					小テスト	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかるマスターMOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集 (FOM 出版)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. アプリケーションのインストール、 Word 復習 (図の挿入、表の作成)			時間数 2	5. 参考資料の作成と管理		時間数 4
2. 文書の作成と管理			4	6. グラフィック要素の挿入 書式設定		4
3. 文字、段落、セクションの書式設定			4	7. 模擬試験問題		6
4. 表とリストの作成			4	8. 検定試験		2
その他				関連科目		
				情報リテラシーⅠ・Ⅲ 情報処理入門Ⅰ・Ⅱ		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K07
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
情報リテラシーⅢ			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	60	2	梅原 萌子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
Microsoft Office Excel の操作及び実習を通して、それぞれのアプリケーションの理解を深め、検定合格を目指す。Excel のメニューを使いこなし、最終目標として検定に合格するために、総合的な理解ができることが重要である。						
授 業 の 概 要						
MOS 試験範囲を確認しながら、各単元ごと理解度をチェックしていく。 模擬問題も繰り返し学習し、制限時間内 (50 分) に、検定合格目標ライン (80%) に到達できるように理解力を深める。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業内での課題・小テスト・参加態度(学習意欲) を総合的に評価する。					課 題	40%
					小テスト	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかるマスターMOS Excel 2019 対策テキスト&問題集 (FOM 出版)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. アプリケーションのインストール、Excel 復習 (グラフ、表、基本的な関数)			時間数 4	5. 数式や関数を使用した演算の実行		時間数 8
2. ワークシートやブックの作成と管理			8	6. グラフやオブジェクトの作成		8
3. セルやセル範囲のデータの管理			8	7. 模擬試験問題		14
4. テーブルの作成			8	8. 検定試験		2
その他				関連科目		
				情報リテラシーⅠ・Ⅱ 情報処理入門Ⅰ・Ⅱ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K08
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
キャリアデザイン			講義・演習	ビジネスマナー I	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
	通年	必須	30	1	人材サポート 長崎一朗 富田美穂子 近田麻衣子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
「なぜ人は働くのか」通常、「経済的理由・社会的理由・個人的理由」と言われるが、どれに重きを置くかは、それぞれの価値観と置かれた環境に大きく影響される。この授業は、現実の社会、企業が求める人材、雇用情勢の把握と、その中で自分のあり方についての理解（自己分析）を深め、そこから進路選択につながるキャリア形成プランニングを体系化していく。さらに早い時期から就職活動への意識を高め、その実践的ノウハウを習得する。変化していく雇用環境に対応できる自立人間と自律人材になることを目標とし、その礎となる授業である。					
授 業 の 概 要					
キャリアデザインの考え方を理解し、社会に通用する人材になるための指標を持つ。時間の意識・挨拶等マナーの理解と実践・スピーチカトレニング・ディスカッション等によりEQコミュニケーション力の強化も図る。就職環境・業種・職種・企業の理解促進。自己分析のワークシート（課題）と履歴書（課題）を作成し、今後の就職活動にも連動していく。					
成 績 評 価 の 方 法					
出席日数・キャリアデザイン自己分析ワークシート記入内容・履歴書記入内容・レポートの結果や取り組み状況に基づき、成績評価を行う。ワークシートへは詳細に記入することを心掛けてください。					課 題 80% 学習意欲 20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
「就活のコツ／静岡新聞社」 授業に関するテキスト以外の資料は、授業の中で適時プリントを配布します					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1 ①就職できる力／ワーク①天職探索		2	10 ⑩エントリーシート ⑪自己PR動画		2
2 ②夢を描く／ワーク②10年後のやりたい自分 ワーク③学生生活経歴書		2	／ワーク⑬エントリーシート ワーク⑭自己PR		
3 ③業種・職種の理解／ワーク④成功体験		2	11 ⑬面接の受け方		4
4 ④何ができる何がしたい ⑭ステップアップ ／ワーク⑤失敗体験		2	⑮集団・グループディスカッション		
5 ⑤自分を知る自己分析／ワーク⑥自己ワークシート		2	⑯オンライン面接		
6 ⑥⑦求人票・求人情報／ワーク⑦他己ワークシート		2	／ワーク⑯面接対策 ワーク⑰面接質問		
7 ⑧職場訪問／ワーク⑧仕事探索 ワーク⑨未来予想 ワーク⑩未来スケジュール		2	※「学校指定」履歴書提出		
8 ⑪インターンシップ ／ワーク⑪就職条件⑫インターンシップワーク		2	12 ⑪添え状		4
9 ⑨履歴書／ワーク⑮履歴書※「学校指定」履歴書		2	⑫電話のかけ方		
			⑬筆記試験		
			／ワーク⑮封筒・添え状・お礼ワーク		
			13 キャリアデザイン論総括		4
			14 就職ゼミ		4
その他			関連科目		
企業が求める常識力、規律意識、ビジネスマナーを授業でも心掛けてください。					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K09
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
ビジネスマナーⅡ			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
ビジネスマナーⅠで学んだ基本的マナー・エチケットをさらに磨き、今後の実習や就職活動に活かすことができる。					
授 業 の 概 要					
ビジネスマナーを学びより人間関係を構築し、保育者としての表現向上を目指す。 マナーやエチケットを心得ることで、コミュニケーションスキルを高めることが出来る。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題と学習意欲を総合的に評価する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
未定					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 課題設定、職業人としての基本知識			2	8. 訪問のマナー	2
2. 立ち居振る舞い			2	9. 接遇	2
3. 言葉遣い (敬語 言葉と表現)			2	10. 冠婚葬祭 (慶弔 弔事)	2
4. 言葉遣い (言葉を選ぶ)			2	11. 冠婚葬祭 (見舞い 贈答)	2
5. 言葉遣い (表現の仕方)			2	12. ビジネス文書 (文書表記)	2
6. 電話対応 (言い回し 事例)			2	13. ビジネス文書 (通信文)	2
7. 電話対応 (受ける かける)			2	14. 対人コミュニケーション (忠告)	2
				15. 対人コミュニケーション (依頼)	2
その他				関連科目	
				ビジネスマナーⅠ	

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K10
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
ボランティア活動			講義・その他		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	2	吉村 香央里	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
ボランティアを通じて、校内では学べない人とのコミュニケーションについて学びスムーズなコミュニケーションが取れるようになる。						
授 業 の 概 要						
乳幼児をはじめとする子どもとその保護者と触れ合うことで、今後展開される保育・教育実習に向けてのプレ実習のような役割を果たす。 ボランティア活動の事前事後指導として、ボランティア講習会への参加また報告書の提出を行う。 また、「るくる」や「子育て支援センター」などへのボランティア参加を行う。						
成 績 評 価 の 方 法						
ボランティア報告会(期末試験)と各ボランティア時の事前事後指導の報告書(課題)を評価の対象とする。また、ボランティアへの参加状況や授業態度を学習意欲として加味する。					期末試験	50%
					課 題	30%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
なし						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. ボランティア講習会			2			
2. 事前指導			2			
3. ボランティア調査・ 子育て支援センターについて			2			
4. ボランティア学生調査票作成			2			
5. るくる・子育て支援センター ボランティア			6			
6. 子育て支援センターボランティア			8			
7. ボランティア活動参加			4			
8. ボランティア報告会			4			
その他				関連科目		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード		H-K11	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
ペン字			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	後期	必修	30	1	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
文字のもつ環境としての意味を理解し、保育者として正しい文字の書き方・姿勢を身に着ける。 また、丁寧に正しく書こうとする意識を持つ。							
授 業 の 概 要							
保育現場でよく用いられる用語を中心に文字の正しい書き方・書き順などを学び直し、誤字脱字や言い回しに気を付けながら、実習日誌やお礼状等を繰り返し書くことにより、保育者として望ましい姿勢を身に着ける。また、環境としての文字が持つ意味や効果について、制作物を通して理解する。							
成 績 評 価 の 方 法							
理解度・変化の度合いを学生が理解できる事前事後学習を含む課題を実施する。 また、学習意欲など演習の取り組み具合などを総合的に評価する。						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える保育の基本用語（長嶋和代 編 わかば社） これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉（長嶋和代 編 わかば社）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1. オリエンテーション 保育における環境としての文字			2				
2. 文字を書く際のポイント			2				
3. 劇遊びシナリオ作成			2				
4. 確認したい保育基礎用語			8				
5. 実習日誌の書き方			8				
6. お礼状の書き方			4				
7. 自己紹介絵本作成			4				
その他				関連科目			
				制作演習Ⅰ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K12
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
一般教養			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	4	深澤 みほ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
公務員試験に対応できるよう、調査・受験手続などを行う。 また、新聞の読み方など社会人に必要な知識として、話題の時事ネタを中心に討論やグループワークを行い、その内容をプレゼンテーション出来るようにする。					
授 業 の 概 要					
公務員試験について、受験自治体の実施計画を調査する。また、1次試験対策を行う。 社会人としての基礎知識として、新聞内容を読み解き 自分の考えを述べる。また、ディベート・グループワークを経験し、プレゼンテーションも行う。					
成 績 評 価 の 方 法					
単元ごとの課題と期末試験 課題を調査・発表 課題への取り組み態度を学習意欲とする 以上3点を総合的に評価する。					期末試験 70% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1	自治体の公務員試験実施計画を調査		4	5	新聞を読む
2	各自治体の実施計画をリマインド		2	5.1	直近1週間の新聞
3	公務員試験対策		20	6	昨日のニュース
	3.1	専門試験対策		6.1	政治の話題に触れる
	3.2	教養試験対策		6.2	保育の話題に触れる
	3.3	実技試験対策		7	テーマを決めて
4	エントリーシートの書き方			7.1	ディベート
	4.1	一般的なエントリーシート記入	4	7.2	グループワーク
	4.2	各自治体のエントリーシートに挑戦	6	7.3	プレゼンテーション
その他				関連科目	

シラバス (授 業 概 要)					年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算					科目コード		H-K13	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース			
特別活動 I			実技・演習		こども保育科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1	通年	必修	60	2	吉村 香央里			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
校外での集団行動も多く取り入れ、チームワークなど教室の授業では得られないコミュニケーション能力の向上ができるようになる。								
授 業 の 概 要								
保育分野への導入として、刈エンテーションをしっかりと行い、九州短期大学での併修や専門科目への導入とする。 また、保育分野への興味関心を途切れなくするために、「保育キャリア講座」を全6回に渡って開催する。 他に、学校行事として、入学式やスポーツフェスティバル・ハイキング、その他行事など、通常の教科の学習を越えた範囲のさまざまな学習活動を行う。 校外での集団行動も多く、チームワークなど教室の授業では得られない学習効果が得られる。								
成 績 評 価 の 方 法								
各行事への学習意欲で評価する。保育キャリア講座については、授業終了後のレポート提出にて評価する。							課 題	50%
							学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
なし								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
			時間数					時間数
1. 入学式			4	12.防災訓練				2
2. 刈エンテーション			16	13.秋の遠足				8
3. ボーリング大会			2	14.スポーツフェスティバル				8
4. 保育キャリア講座①「OB・OG セミナー」			2					
5. 保育キャリア講座②「園長先生講話」			2					
6. 保育キャリア講座③「スーツ講座」			2					
7. 保育キャリア講座④「メイク講座」			2					
8. 保育キャリア講座⑤「自立への道」			2					
9. 保育キャリア講座⑥「保育実習に向けて」			2					
10. ハイキング			8					
その他					関連科目			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K14	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
特別活動Ⅱ			実技・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	中川 亜弥・榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校外での集団行動も多く取り入れ、チームワークなど教室の授業では得られないコミュニケーション能力の向上ができるようになる。					
授 業 の 概 要					
学校行事として、各種行事（ハイキング・スポーツフェスティバル・ボーリング大会など）や九州短期大学へのスクーリングを実施する。					
成 績 評 価 の 方 法					
認定科目のため、学習意欲で評価する。 また、九州短期大学への本学スクーリングについては、報告書と報告会(課題)にて評価する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. ボウリング大会	時間数	4	6. おもちゃイラスト講座	時間数	10
2. ハイキング	8		7. スポーツフェスティバル (草薙体育館)		8
3. 防災訓練			8. 保育特別講座		4
4. 九州短期大学本学スクーリング 事前指導	2				
研修旅行	2				
報告会	16				
5. 九州短期大学科目終末試験	4				
	2				
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K15
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
特別活動Ⅲ			実技・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校外での集団行動も多く取り入れ、チームワークなど教室の授業では得られないコミュニケーション能力の向上ができるようになる。					
授 業 の 概 要					
学校行事として、各種行事（ハイキング・スポーツフェスティバル・ボーリング大会など）やおもちゃインストラクター養成講座を受講する。					
成 績 評 価 の 方 法					
認定科目のため、参加態度（学習意欲）で評価する。 また、保育(夏・冬)特別講座については、報告書(課題)にて評価する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. ボウリング大会	時間数	2	7. スポーツフェスティバル 草薙体育館	時間数	8
2. ハイキング	8		8. 保育冬の特別講座	4	
3. 保育夏の特別講座	4				
4. 防災訓練	2				
5. ハイキング	8				
6. 救急法	24				
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K16	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
幼児の心理学			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	15	1	磯部 隆
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育者として幼児の遊び、言葉の発達、学び、行動の仕方に関する理解を深めていく。 また、ボランティア活動や実習時など実際にこどもと接する際には、幼児の心理学での理解を基にコミュニケーションが取れるようにしていく。					
授 業 の 概 要					
幼児期の傾向と特徴、幼児の遊びの種類、遊びの治療的意味、遊びの教育的意義、言葉の発達、言葉の意義と獲得、遊びと学びの結びつき、人格形成理論と幼児の心理を概論していく。併せて、体験的な学び、演習を含めた学びを重視し進めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
基本的な事項の理解度を期末試験として評価。併せて、授業を重視するため一定の授業を経て、ミニレポートを提出することを求めます。まとめる力を培うためです。 また、授業への姿勢と取り組み(学習意欲)を重視し、評価に加味していきます。				期末試験	60%
				レポート	20%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
「よりよく生きるための心理学」(磯部 隆著 中部印刷)					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 幼児心理の概説			2	8. 思考、学び	
2. 子どもの遊びの種類			1	9. 脳の働きと言葉	
3. 遊びの治療的意味			1	10. 幼児の行動と成長	
4. 遊びの境域的意味			1	11. 幼児のコミュニケーション	
5. 言葉の発達			1		
6. 言葉の意義と獲得			2		
7. 遊びと学びの結びつき			1		
その他				関連科目	
				教育心理学 S	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
H-K17					
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
教育原理			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	森下 みつ美
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・教育の目的、意義、方法などの基本的な内容について理解することができる。 ・外国や現代社会における教育の諸問題について考察し、幼児期の教育の基本原理とその特徴を学ぶことができる。					
授 業 の 概 要					
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる人物やワードには補足したり資料を提示したりして説明していく。授業内では学習内容の理解を深めるために、グループワークや小レポートを実施する。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（講義ごとの小レポート）、学習意欲（授業態度・発表・出欠状況）を総合的に判定し評価する。小レポートは授業内で実施するが、決められた期日までの提出と課題内容の記述があることが求められる。				期末試験	40%
				課 題	30%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
保育のための教育原理 ミネルヴァ書房 ※必要なプリントを配布する					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 教育とは何か		2	9. 教育の計画と評価		4
2. 幼児教育思想の歴史		4	10. 現代社会と生涯学習		2
3. 教育制度の成立と幼児教育の展開		2	11. 教育・保育現場をめぐる 現代的課題		2
4. 戦後日本における教育の再出発		2	12. 連携による教育・保育		2
5. 教育の法規と制度の基礎		2			
6. 諸外国における教育・保育		2			
7. 教育の方法		4			
8. 教育の内容		2			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K18	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
造形表現 (指導法)			講義・実技		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	戸塚 恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育者が幼児一人一人の自己表現を受容・理解し、幼児の豊かな感性を養う援助者であるために、子供の能力・身体的発達と幼児の発達過程の特徴について理解し、子供一人一人の発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指す。					
授 業 の 概 要					
幼児の身体と心、能力の発達と造形表現の発達の関連を学び、それぞれの発達段階に対応した指導ができるように基礎的知識と技術の履修を目指す。材料や道具の使い方を習得する。幼児の発達に応じた効果的な材料や道具の活用方法を創意工夫して制作する。					
成 績 評 価 の 方 法					
幼児の発達段階をまとめて発達表の制作。実技で制作する課題を総合的に評価する。テストは実施せず提出物で評価する					課 題 80% 学習意欲 20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
造形表現 (指導法) 教科書・アクリルガッシュ・スケッチブック・定規・ハサミ・カッター・のり・ボンド・ホットボンド (グルーガン)・折り紙・色画用紙、等					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			
1. 幼児の一般的な心身の発達		4			
2. 幼児の造形表現の発達		4			
3. 発達表の制作		2			
4. 幼児の発達に応じた道具の使い方指導と制作援助について					
①描く		2			
②切断と接着		2			
③遊ぶ		2			
その他			関連科目		
			造形表現 (指導法) S		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K19	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
幼児と言葉			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	15	1	森主 あゆみ		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
内容領域としての「言葉」の理解を深めるとともに、実例を通して幼児の言葉の発達に欠かすことのできない保育者の役割を知る。							
授 業 の 概 要							
保育所保育指針・幼稚園教育要領の「言葉」について、テキストに沿った学習を進める。また乳幼児の言葉の発達を助ける保育者の役割や援助のあり方、具体的な活動について学ぶ。							
成 績 評 価 の 方 法							
科目終末試験結果 学習態度（意欲・積極性・課題） 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。						期末試験	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
子どもと言葉（萌林書店） 厚生労働省「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）文部科学省「幼稚園教育要領」（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1. オリエンテーション			2				
2. 言葉の発達と環境			2				
3. 子どもにとって言葉とは			2				
4. 保育内容・言葉「ねらい」			2				
5. 保育内容・言葉「内容」			2				
6. 保育内容・言葉「内容の取り扱い」			2				
7. 領域・「言葉」の具体的内容			2				
8. 言葉がけを中心としての援助と関わり			2				
その他				関連科目			
				言葉（指導法）			

シラバス (授 業 概 要)				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-K20	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
幼児と人間関係			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	15	1	榛葉 幸子		
授 業 の 目 的 ・ 目 標							
幼児をとりまく人間関係の現状を把握し、人と関わる力の重要性和それを育むための援助の在り方を理解する。また、支え合う仲間集団とはどのようなものか理解する。							
授 業 の 概 要							
各年齢における発達と人間関係の在り方について理解し、人的環境である保育者として必要なことは何か、事例を通して考え学ぶ。							
成 績 評 価 の 方 法							
授業での積極性や協力的な学びの姿 課題等での理解度 を総合的に評価する						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
教科書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説 幼児と人間関係 - 保育者をめざす - (同文書院)							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. 「人間関係」とは 領域「人間関係」の社会的背景 子どもの発達と人間関係			時間数 2	5. 子どもとのかかわりを通した幼児 理解と評価			時間数 2
2. 領域「人間関係」のねらいと内容			2	6. 子どもの家庭背景を踏まえた幼児教 育・保育の視点			2
3. 保育者のかかわり方と集団作り			2	7. 幼児教育・保育と小学校との接続の 課題			2
4. 保育における子ども同士の関係			2	8. 多文化共生社会における幼児教 育・保育の課題			2
その他				関連科目			
				人間関係 (指導法) S			

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
				科目コード		H-K21	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
幼児と環境			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	15	1	田村 都弥		
授 業 の 目 的 ・ 目 標							
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」における領域「環境」という側面から、子どもの発達の特性、学習計画と実際の指導法を理解する。							
授 業 の 概 要							
領域「環境」のねらいと内容を知り、実際の子どもの姿や育ちを思い浮かべながら、グループでより良い保育を論じて探っていくアクティブラーニングによって、深い理解と能力を身につける。							
成 績 評 価 の 方 法							
通常授業での積極性や協力的な学びの姿勢 レポート等での理解度 を総合的に評価する					課 題	50%	
					学習意欲	50%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
教科書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説 最新保育講座9 保育内容 「環境」（柴崎 正行、若月 芳浩、ミネルヴァ書房）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. 現在の社会におけるこどもを取りまく環境について考え、保育の役割について考察する			時間数	2			時間数
2. 成長過程におけるこどもの環境への関わりや発達過程を学ぶ				4			
3. 領域「環境」のねらい・内容を理解する				4			
4. 環境活動の展開と援助について具体的な事例から指導方法を学ぶ				4			
5. 実践演習・発表				2			
その他				関連科目			
				環境（指導法）S			

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K22
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス	
社会福祉			講義		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	2	工藤 豪	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
社会福祉に関する基本的知識を身につけるとともに、医療・介護・年金・生活保護など日本の社会保障における仕組みや特質・課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。						
授 業 の 概 要						
世界で最も老年人口割合が高く、人口高齢化の著しい日本社会において、社会福祉の制度・サービスは重要な意味をもっている。本授業では、講義形式と資料解釈作業およびグループ考察を併用し、社会福祉の歴史的展開や人口高齢化の動向、社会保障と人びとの生活の関わりについて理解を深めていく。						
成 績 評 価 の 方 法						
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。					試 験	50%
					課 題	25%
					学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』（2018、鬼崎信好・本郷秀和編、講談社）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数	時間数		
1. オリエンテーション・社会福祉の歴史と展開（1） —明治期—			2	9. 社会保障制度の体系（2） —社会保障費用の推移と推計—		
2. 社会福祉の歴史と展開（2） —大正期・昭和前半—			2	10. 社会保障と社会福祉（1） —健康保険と国民健康保険—		
3. 社会福祉の歴史と展開（3） —戦後の日本—			2	11. 社会保障と社会福祉（2） —高齢者に関する医療制度—		
4. 人口高齢化の動向（1） —人口高齢化の国際比較—			2	12. 社会保障と社会福祉（3） —介護保険制度の概要—		
5. 人口高齢化の動向（2） —死亡率の低下と長寿化の影響—			2	13. 社会保障と社会福祉（4） —介護保険制度の特徴と課題—		
6. 人口高齢化の動向（3） —人口移動と老年人口割合の関係性—			2	14. 社会保障と社会福祉（5） —公的年金制度の概要—		
7. 人口高齢化の動向（4） —高齢化の地域差に関する将来推計—			2	15. 社会保障と社会福祉（6） —生活保護制度の概要—		
8. 社会保障制度の体系（1） —社会保障制度の機能・財源方式—			2			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード		H-K23	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
子ども家庭福祉			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	前期	必修	30	2	工藤 豪		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につけるとともに、子ども家庭福祉をめぐる制度や施策の特徴、児童虐待や子育て環境における課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。							
授 業 の 概 要							
少子化の進行や地域社会の稀薄化に象徴されるように、わが国の子どもをめぐる環境は急速に変容しているが、その中で、子どもの健やかな育ちをどのように支援していくべきなのであろうか。本授業では、子ども家庭福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の展開、子育て支援施策の特徴、児童虐待における課題、子育て支援サービスや子育て環境の特質などについて理解を深めていく。							
成 績 評 価 の 方 法							
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。						試 験	50%
						課 題	25%
						学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
『新・子ども家庭福祉』（2020、浦田雅夫編著、教育情報出版）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念			時間数	9. 近年における子ども家庭福祉の展開（1）－1990年代の子育て支援－			時間数
2. 「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変化・転換			2	10. 近年における子ども家庭福祉の展開（2）－2000年以降の子育て支援－			2
3. 親権と子ども			2	11. 児童虐待（1）－分類と近年の特徴－			2
4. キーワードからみる子ども観（1）－捨て子・堕胎・跡取り－			2	12. 児童虐待（2）－制度的対応－			2
5. キーワードからみる子ども観（2）－愛着理論と3歳児神話－			2	13. 子育てに関する経済的支援			2
6. 児童福祉の展開（1）－戦前－			2	14. 子育て支援サービスと子育て環境			2
7. 児童福祉の展開（2）－戦後－			2	15. 子どもの存在と母子保健に関する動向			2
8. 少子化とベビーブーム			2				
その他				関連科目			

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K24
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
保育原理			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	森下 みつ美	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
・ 保育の意義、目的や保育所保育指針における保育の基本、保育についての思想や歴史について知ることができる。						
・ 子どもを援助するうえでの保育の内容と方法の基礎事項が理解できる。						
授 業 の 概 要						
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる人物やワードには補足して説明する。保育の現状と課題について考察し、グループワークや発表を通して、保育に対するいろいろな考え方を知り、また、自分なりの見識が持てるようにしていく。1年時に学習した教育原理と重複内容もあるため、復習しながら進めていく。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験、課題（小レポート）、学習意欲（授業態度・発表・出欠状況）を総合的に判定し評価する。小レポートは授業内で実施するが、決められた期日までの提出と課題内容の記述があることが求められる。					期末試験	40%
					課 題	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
・ 保育原理（近畿大学九州短期大学発刊）						
・ 新基本保育シリーズ 保育原理（中央法規）						
※必要なプリントを配布する						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. 幼児期の特徴と保育の意義				6. 保育の目的		2
1-1 乳幼児期の特徴と保育の意義			2	7. 保育の内容・方法		2
1-2 乳幼児期の発達的特質			2	8. 保育の計画・評価		
2. 保育思想と児童観の変遷				8-1 保育の計画		2
2-1 古代～近世			2	8-2 保育の評価		2
2-2 近代幼児教育思想の形成			4	9. さまざまな保育と課題		2
3. 近代保育施設・制度の創設と発展			2			
4. 各国の保育			2			
5. 我が国における幼稚園・保育所の成立と変遷			2			
5-1 幼稚園			2			
5-2 保育園			2			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K25	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
社会的養護 I			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	工藤 豪
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
社会的養護に関する基本的な知識を身につけるとともに、社会的養護における理念・仕組み・実施体制などの特質・課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。					
授 業 の 概 要					
わが国は子どもの出生数が減少しているにもかかわらず、保護や養護を必要とする子どもは増加傾向にあり、社会環境の変化の中で社会的養護の必要性は高まっている。そのような状況を踏まえ、社会的養護の歴史・理論・体系、その特徴や課題などについて理解を深めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。				試 験	50%
				課 題	25%
				学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』（2018、伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション・社会的養護の動向と現状		2	9. 社会的養護の実施体制		2
2. 社会的養護で暮らす子ども		2	10. 社会的養護の枠組み－パーマネンシーという視点－		2
3. 社会的養護を支える理論		2	11. 施設養護（1）－機能と役割の変化－		2
4. 社会的養護の必要性		2	12. 施設養護（2）－レジデンシャルワーク－		2
5. 子どもを産み育てるということ		2	13. 家庭的養護		2
6. 社会的養護の歴史（1）－古代から大正期まで－		2	14. 里親制度の概要と課題		2
7. 社会的養護の歴史（2）－昭和期から現代まで－		2	15. 小規模住居型児童養育事業と養子縁組制度		2
8. 社会的養護の歴史（3）－近年における課題－		2			
その他			関連科目		
			社会的養護 IIS		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K26	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
子ども家庭支援論			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	工藤 豪
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
子どもと家庭に関する基本的知識を身につけるとともに、現代の日本社会で家庭支援を行う意義や家庭への個別的な支援における特徴や課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。					
授 業 の 概 要					
核家族化やきょうだい数の減少および地域社会の稀薄化などにより、わが国で伝統的に行われてきた家庭の機能・役割が縮小している中、保育者による家庭支援の意義・必要性が高まっている。そのような社会の変容を踏まえ、子どもと家庭における特徴や抱える課題を把握し、制度を活用しながら多様な家庭を支援していく方法について理解を深めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
試験（試験）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢等（学習意欲）、以上から総合的に評価する。				試 験	50%
				課 題	25%
				学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
『よくわかる家庭支援論』（2015、橋本真紀・山縣文治編、ミネルヴァ書房）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション・家庭支援を行う意義と求められる背景	時間数	2	9. 保育者による家庭支援－保育所保育指針と幼稚園教育要領－	時間数	2
2. 子どもと家庭（1）－基本的な家族形態と家族構造－	2		10. 子どもを産み育てるライフコースとその障壁	2	
3. 子どもと家庭（2）－核家族化の実態－	2		11. 女性の社会進出と特別なニーズを有する家庭への支援	2	
4. 子どもと家庭（3）－現代社会における家庭の機能－	2		12. 家庭への個別的な支援（1）－家庭への個別支援における留意点－	2	
5. 子どもと家庭（4）－地域社会と子育て環境の変容－	2		13. 家庭への個別的な支援（2）－アセスメントと援助計画の作成－	2	
6. 子どもと家庭（5）－親になるプロセスとリプロダクティブヘルス/ライツ－	2		14. 家庭への個別的な支援（3）－援助活動の実施から評価・終結へ－	2	
7. 子どもと家庭（6）－乳幼児期の子どもと子育て	2		15. 家庭への個別的な支援（4）－家庭支援における記録の目的とジェノグラムの作成－	2	
8. 子どもと家庭を支える機関・人・制度	2				
その他	関 連 科 目				

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K27	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
幼児への特別な支援			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必須	15	1	前田 基子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
特別な支援を必要とする幼児の特性と心身の発達や課題、および学びの過程を理解する。 特別支援教育や障害がある幼児の保育に関する制度や仕組みを理解する。 特別な支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。					
授 業 の 概 要					
特別な支援を必要とする幼児の様々な特性と発達を理解し、障害によっても異なる支援の方法を学ぶ。 さらに障害がある幼児、児童に対する現在の特別支援教育、幼児に関する支援の制度や仕組みを理解する。 また、保育士が支援する際の一人ひとりに合わせた支援計画のたて方、他機関や家庭との連携の必要性や留意点について学ぶ。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（課題に対する考察や記述の内容）、学習意欲（受講態度及び取り組み姿勢）を総合的に評価する。				期末試験	40%
				課 題	30%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 よくわかる障害児保育 第2版（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 乳幼児期の発達課題と障害特性			2	7. 個別の指導計画と個別の教育支援	
2. 様々な障害がある幼児（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由児・病弱、言語障害）の理解と支援			2	計画を作成するための基礎知識(1)	
3. 多様な支援を必要とする幼児（外国にっながら子ども、貧困の子ども）の理解と支援			2	8. 個別の指導計画と個別の教育支援	
4. 特別支援教育に関する理念と制度の仕組み			2	計画を作成するための基礎知識(2)	
5. 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容			2		
6. 園内連携と家庭及び関係機関との連携			2		
その他				関連科目	

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K28
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス	
子どもの食と栄養			講義・演習		子ども保育科	
履修学年			時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	15	2	末永 美雪	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
小児の発達・発育の特性、健康・栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。						
授 業 の 概 要						
保育者として、子どもに適切な食事環境を提供できるよう、それぞれの発達段階の特性や、栄養について理解させ、調理技能の習得を目指す。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験と課題、平常点（学習意欲）を総合的に評価する					期末試験	50%
					課 題	30%
					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
テキスト：二見大介・高野 陽 編著、『子どもの食と栄養』、北大路書店 2017 年版						
参考文献：『食品成分表』 女子栄養大学出版部						
菅原 園他『発育期の子どもの食生活と栄養』、学建書院						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1、栄養に関する基礎知識			2			
2、乳児期の授乳栄養について			4			
3、離乳栄養について			4			
4、幼児期の栄養について			2			
5、幼児期の栄養上の問題点と食育			2			
6、小児期の食生活について			2			
その他				関連科目		
				子どもの食と栄養 S		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K29
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
子どもの保健			講義・演習 グループワーク		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	池ヶ谷 麻紀子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
[目的] 子どもの心身の健康の維持増進のために、保育者に必要な知識と技術を身につけることができる						
[目標]・子どもの保健の概要がわかり、子どもの保健の社会的意義について理解できる						
・子どもの健康な発育・発達を理解できる						
・子どもの健康を妨げる要因を知り、その対応について、実践につながる知識・技術を身につけることができる						
・保育者として、子どもの保健における自己の役割について考えることができる						
授 業 の 概 要						
講義、演習を中心に、子どもの健康に関して実践につながる内容を学習する。						
事前学習で個々に得た知識を持ちより、全体共有することで、学習をより確かなものにしていく。						
成 績 評 価 の 方 法						
1. 学習意欲		事前課題で十分な学習準備を行っているか、積極的な発言ができているか、他者の意見を聞くことができているか、で評価する。				期末試験 50%
2. レポート		一定期間学習が進んだところで、題目を提示する。自分の考えをきちんと持ち、他者に伝えることができるかを評価する。				課 題 20%
3. 期末試験		テキスト、授業で取り上げた内容から出題する。				学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかる子どもの保健 (ミネルヴァ書房)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. 子どもの保健とは			1			
2. 子どもの保健と社会			2	8. 子どもの疾病と予防、対策		6
3. 子どもの発達の特徴			1	9. 子どもの障害のとりえ方		2
4. 子どもの身体発育と生理機能			4	10. 現代社会における子どもの健康課題		4
5. 子どもの運動機能の発達			2	11. 児童福祉施設における保健		1
6. 子どもの精神発達			2	12. 子どもの保健における保育者の役割		1
7. 子どもの生活と保健			4			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K30	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
保育の心理学			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	内野 千珠子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる。 ・ 乳幼児期の子どもの学びの課程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義が理解できる。					
授 業 の 概 要					
子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。保育者としての在り方を考えながら、他者とのコミュニケーションを図る演習も取り入れる。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（一定の授業後のレポート）における理解度と表現力、授業に取り組む積極的な姿勢（学習意欲）を総合的に評価する。				期末試験	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
教科書： 保育の心理学 （近畿大学九州短期大学発行）					
その他： 必要に応じてプリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション		時間数	4. 子どもの学びと保育		時間数
2. 発達を捉える視点		2	4-1 乳幼児期の学びに関わる理論		4
2-1 子どもの発達を理解することの意義		2	4-2 乳幼児期の課程と特性		4
2-2 子どもの発達と環境		2	4-3 乳幼児期のまなびを支える保育		4
2-3 発達理論と子ども観・保育観		2			
3. 子どもの発達過程					
3-1 社会情動的発達		2			
3-2 身体的機能と運動機能の発達		2			
3-3 認知の発達		2			
3-4 言語の発達		4			
その他			関連科目		

シラバス（授業概要）					年度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-K31
授業科目名			授業形態		学科・コース	
子ども家庭支援の心理学			講義		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	実務経験のある教員	
授業の目的・到達目標						
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点が習得できる。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解できる。 ・子どもの精神保健とその課題について理解できる。						
授業の概要						
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得できるよう、初期経験の重要性、発達課題等について、家族・家庭の意義や機能を学んでいく。また、子育て家庭をめぐる現代の社会状況や子どもの精神保健についても考え、それらの課題についても理解できるようにしていく。						
成績評価の方法						
期末試験の結果、演習課題の評価点、学習意欲（授業態度）を総合評価したうえで決定する。実習課題については、要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。実習課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					期末試験	50%
					課題	30%
					学習意欲	20%
使用テキスト・教材						
テキスト：子どもの家庭支援の心理学（中央法規）						
授業内容・授業計画						
			時間数	時間数		
1. 生涯発達				3. 子育て家庭に関する現状と理解		
1-1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達			2	3-1 子育てを取り巻く社会的状況		
1-2 学童期後期から青年期後期にかの発達			2	3-2 ライフコースと仕事・子育て		
1-3 成人期・老年期における発達			2	3-3 多様な家庭とその理解		
2. 家庭・家族の理解				3-4 特別な配慮を要する家庭		
2-1 家族・家庭の意義と理解			2	4. 子どもの精神保健とその課題		
2-2 親子関係・家族関係の理解			2	4-1 子どもの生活・生育環境とその影響		
2-3 子育ての経験と親としての育ち			2	4-2 子どもの心の健康に関わる問題		
その他				関連科目		
				保育の心理学 子ども家庭支援論		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H - K32	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
教育課程総論			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
教育課程の目的や意義に関して、基本的な理解が深められるになる 幼児期の特性をふまえ、幼児教育課程のあり方に対する理解が深められるようになる 教育課程の編成及び指導計画作成に対する理解が深められるようになる					
授 業 の 概 要					
教育課程は、幼児が園で過ごす時間の全体をデザインするものであり、教育の目的や目標を表すものでもあります。具体的な指導案の作成を通して、保育展開のながれを知る。					
成 績 評 価 の 方 法					
試験（試験）、作業プリントや課題、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
新しい幼児教育課程総論（岸井勇雄、横山文樹、同文書院）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 幼児期の特質		2	10. 教育課程、全体的な計画の評価		2
2. 教育課程、全体的な計画の意義と方向		2	11. 教育課程、全体的計画と指導計画の事例		2
3. 「3つの資質・能力」「幼児期までに育てほしい10の姿」		2	12. 指導計画の作成ポイント		4
4. 幼稚園・保育所・認定こども園		2	13. まとめ		4
5. 教育課程、全体的な計画の基準		2			
6. 幼児教育課程の基本		2			
7. 基礎となる幼児の姿		2			
8. 目的・目標と、ねらい及び内容		2			
9. 教育課程、全体的な計画の編成と指導計画の作成		2			
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度	
時間数は45分換算					科目コード	H-K33	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
教育方法論			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	30	2	実務経験のある教員		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
② 幼児教育・保育に関する基礎的な基本的知識を理解する。 ②上記の点を踏まえ、保育現場における適切な活動を構想できるようになる。 ③教師・保育者の意図や工夫、子どもの学びについて考える。							
授 業 の 概 要							
前半：教科書中心に幼児教育の方法について講義をする。(環境を通した保育・主体的保育・遊びを通した保育・保育形態を学ぶ) 後半：乳児から幼児へのつながる保育を発達領域と保育環境から学ぶ。							
成 績 評 価 の 方 法							
記述テスト、課題の内容や提出方法、学習態度等を考慮し、総合的に判断し評価する。グループディスカッションには積極的な参加を望む。					期末試験	50%	
					課 題	30%	
					学習意欲	20%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
テキスト：「幼児教育の方法」(小田 豊・青井典子) その他：必要に応じてプリント配布							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション 全講義の流れ・幼児期にふさわしい教育方法とは何か。			時間数 2	8. 遊びの中の学びをはぐくむ保育 友だちと関わってする遊び 共通の目的を見出し協同する遊び			時間数 2
2. 幼児教育と保育			2	9. 様々な保育形態を学ぶ 保育形態のタイプ			2
3. 環境を通しての保育			2	10. 保育における評価			2
4. 遊びを通しての保育			2	11. 保育の記録と省察			2
5. 子どもの主体性の育成			2	12. 小学校との接続と連携			2
6. 保育者の役割			2	13. 家庭と地域との連携			2
7. 遊びの中の学びをはぐくむ保育 感じる・表現する遊び 気づく・試す・考える遊び			2	14. 保育におけるカウンセリングマインド			2
				15. まとめ			2
その他				関連科目			
講義終了後、ワークシートにて自身の学びを振り返る。							

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K34
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授 業 形 態	学 科 ・ コー ス	
教職概論			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必須	30	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
①教職の意義、職務内容、資質について理解する。 ②自分自身が目指す教師像をより豊かに明確なものとする。					
授 業 の 概 要					
教育とは何か、子どもにとっての教師とは何か、教職に関わる職務内容や歴史等を理解しながら学ぶ。 また、指導の方法と考え方、カウンセリングマインドについての学びを深めながら、どのような教師として成長したらよいかを事例や記事を通して自分なりの答えを導き出していく。					
成 績 評 価 の 方 法					
記述テスト、課題の内容や提出方法、学習態度等を考慮し、総合的に判断し評価する。グループディスカッションには積極的な参加を望む。				期末試験	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
改訂 教職概論 (古橋和夫) その他：必要に応じてプリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		時間数
1. ガイダンス～教育とは何だろう			2	8. 幼稚園・保育所・認定こども園 の 生	2
2. 教職とは何か			2	活	2
3. 教師としての資質と生活			2	9. 小学校での学習	2
4. 現代社会における子ども			2	10. チームとしての学校	2
今、子どもに何が起きているか				11. 保育・教育の場でのカウンセリング	
～グループ討議				グマインド	2
5. 現代社会における子ども			2	12. 教師をめぐる新しい動き	2
今、子どもに何が起きているか				13. 教師をめぐる法律	
～グループ討議				～教職教員免許法・教師の身分・服務義務	2
6. グループ発表				14. 教育の質を高めるための自己研鑽	2
7. 幼稚園・保育所・認定こども園について			2	15. まとめ	
			2		
その他			関連科目		
授業内におけるグループ討議には積極的に参加してください。また、日頃からニュースや新聞に掲載される教育に関する記事に注目してほしい。					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K35
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
教育相談			講義	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必須	30	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・子どもの気持ちを深く理解し、共感的な対応が柔軟にできる。 ・子どもをめぐる諸問題について、自分自身の体験に基づき、更に学んだ知識を活用して、論理的に思考し、意見を述べたり書いたりすることができる。 ・保育や教育の現場での様々な子どもの発達課題についての基礎知識とスキルを習得する。 ・発達障害、児童虐待、日本で暮らす外国につながる子どもたち、登園渋り・不登校など、子どもをめぐる問題についての知識を学び、考える力を身につけることを目的とする。					
授 業 の 概 要					
・教育相談の基礎的事項について学ぶ。 ・カウンセリング理論およびアセスメント技法について学ぶ。 ・不登校・いじめ・非行・発達障害・虐待の知識を深める					
成 績 評 価 の 方 法					
レポート・学習意欲を総合的に評価する。レポート、学習意欲（授業態度）を総合評価したうえで決定する。実習課題については、要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。実習課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。				期末試験	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
テキスト：子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育園で行う保護者の心のサポート～（石川洋子/図書文化） 必要に応じてプリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. オリエンテーション			2	11. 教育相談の実際- 思春期	2
2. 教育相談の基本			2	12. 教育相談の実際-子どもの絵	2
3. 教育相談と心理アセスメント技法			2	13. 教育相談の実際-ネット社会	2
4. 子どもの自己理解を進める技法			2	14. レポート	2
5. 園児への心理的援助			2	15. まとめ	2
6. 小学校における児童への心理的援助			2		
7. 中学校における児童への心理的援助			2		
8. 教育相談の実際- 不登校			2		
9. 教育相談の実際- 引きこもり			2		
10. 教育相談の実際- 発達がいとの関係			2		
その他			関連科目		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード		H-K36	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
保育・教職実践演習			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	前期	必修	15	1	森主 あゆみ		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
・ 自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・ 保育者としての使命や職務内容を理解し、コミュニケーション能力を習得する。							
授 業 の 概 要							
これまでの学習と実習を振り返り、自分の学びや課題に気づき、理想とする保育者像に近づくためにはどのようにすればよいのか具体策を考え、不足している知識や技能を補い定着を図る。							
成 績 評 価 の 方 法							
学習意欲（発表を含める）、課題の評価点を総合評価したうえで決定する。						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. オリエンテーション 保育・教職実践演習について			時間数 2	6. グループワーク（アイデア集作成）			時間数 4
2. 保育者の役割と職務内容			2				
3. 自分の理想とする保育者像とは			2				
4. 自分の得意と課題を知る			2				
5. 課題を解決するための方策を考える			4				
その他				関連科目			
				保育・教職実践演習 S			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K37	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス
児童文化			演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必須	15	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保実で、子どもたちの前で絵本の読み聞かせや紙芝居を演じること等ができるようになる。また、実際に保育者になってから、適切な児童文化財を子どもに与えることができるようになる。 オリジナルの児童文化財を制作し発表することができる。					
授 業 の 概 要					
子どもの生活の中心には遊びがある。児童文化の中心的な課題を遊びの中に見出し、子どもの成長と文化の関わり、具体的な活用方法等を学ぶ。 児童文化財の実践を通して、子どもに対する効果的な働きかけ方について学び、保育者としての役割を理解し実践につなげていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲や授業内での発表（手遊び、絵本、紙芝居等）課題、レポートを総合評価したうえで決定する。				期末試験	25%
				課 題	50%
				学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ 児童文化（近畿大学九州短期大学発行） ・ 必要な資料をプリント					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1	オリエンテーション 児童文化とは何か	時間数 2	3	絵本の読み聞かせ 3-1 実践	時間数 2
2	児童文化財の特徴と演じ方		4	紙芝居 4-1 紙芝居を演じる	2
	2-1 手遊び、絵本、紙芝居	2	5	折り紙の実践	2
	2-2 素話、ペープサート、 パネルシアター	2	6	パネルシアター、ペープサート	
	2-3 折り紙、あやとり、伝承遊び	2	6-1 制作		1
			6-2 発表		1
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である			・ 児童文化 S		
・ 制作セット（のり、はさみ、テープ、ペン他） 絵の具一式、パネル布、Pペーパー ・ 絵本（読み聞かせ用）					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K38
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
乳児保育 I			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	森下 みつ美
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 0.1.2 歳児の発育と発達の特徴について理解することができる。 ・ 保育者として必要な知識と技能の基礎を身につける。					
授 業 の 概 要					
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる考え方やワードには補足して説明する。乳児の接し方については、教員が実演したり、学生に実践してもらったりして技能を獲得できるようにする。計画立案や書類作成においては実際に書く機会を設ける。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験、課題（小レポート・課題提出）、学習意欲（授業態度・発表・出欠状況）を総合的に判定し評価する。課題においては、決められた期日までの提出と課題内容に沿ったものであることが求められる。				期末試験	40%
				課 題	30%
				学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ はじめて学ぶ乳児保育 同文書院 ・ 保育所保育指針 ・ 認定こども園教育保育要領 ※必要なプリントを配布する					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 乳児保育はなぜ必要か		2	6. 様々な乳児保育の考え方		2
2. 乳児保育の歴史と現状		2	7. 乳児のころ・ことば・からだの発達		4
3. 乳児保育にまつわる法律		2	8. 乳児保育における複数担任制		2
4. 保育所保育指針とは		2	9. 乳児の一日の流れ		2
5. 保育所保育指針における乳児保育のポイント			10. 保護者との連携		2
5-1 6 か月未満の子どもの育ち		2	11. 発達の遅れと向き合う		2
5-2 6 か月以上 1 歳未満の子どもの育ち		2			
5-3 1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ち		2			
5-4 2 歳～3 歳の子どもの育ち		2			
その他			関連科目		
			乳児保育Ⅱ S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K39	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
音楽 I			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	120	4	大須賀 千尋
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
ピアノ初心者は基礎的な技術を習得し、簡単な弾き歌いができるようにする。 経験者は技術向上に努め、更に弾き歌いのレパートリーを数多く作る。 楽典で演奏に必要な知識を身につけ、発音・発声・音程など歌唱力の基礎を作る。					
授 業 の 概 要					
「音楽の楽しさ」を伝えられる幼児教育者となる為に必要な表現力・技術力をつける第一段階として、「歌うこと」、「弾くこと」の基礎をつくっていく。前・後期で実技、楽典（筆記）の試験を行う。 ピアノは個々の能力や進度に応じて進めていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
・実技、楽典（筆記）試験 ・授業の参加態度・参加意欲 ・日々の練習課題（目標クリア率等）以上を基に総合評価する ・バイエル、弾き歌い曲、共に規定曲数終了				期末試験	60%
				課 題	30%
				学習意欲	10%
使用テキスト・教材					
近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本、声楽教本 ジュニアクラスの楽典テキストワーク 他、随時配布するプリント、個々の能力に応じた教材を使用する					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画2021					
	時間数		時間数		
コミュニケーション	4	レッスン、歌、前期の復習	4		
基礎知識、姿勢と指の形	4	レッスン、歌、連符と速度記号	4		
レッスン、歌、楽典 音符①	4	レッスン、歌、奏法を支持する記号	4		
レッスン、歌、休符①	4	レッスン、歌、強弱記号	4		
レッスン、歌、読譜	4	レッスン、歌、曲想を表す記号	4		
レッスン、歌、音符②	4	レッスン、歌、中間確認	4		
レッスン、歌、休符②	4	レッスン、歌、音程	4		
レッスン、歌、中間確認	4	レッスン、歌、音階と調号 長調	4		
レッスン、歌、拍子と拍	4	レッスン、歌、音階と調号 短調	4		
レッスン、歌、弱起と強起	4	レッスン、歌、移調	4		
レッスン、歌、変化記号	4	レッスン、歌、中間確認	4		
レッスン、歌、異名同音	4	レッスン、歌、フレージング	4		
レッスン、歌、反復記号	4	レッスン、歌、確認	4		
前 期 試 験	4	後 期 試 験	4		
レッスン、歌、後期に向けて	4	1年間のまとめ	4		
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である		音楽Ⅱ、音楽Ⅲ、 音楽表現（指導法）S、幼児と音楽表現			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K40	
授 業 科 目 名		授業形態		学科・コース	
音楽Ⅱ		演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必須	90	3	川嶋 伸子
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育士・幼稚園教諭として必要な、ピアノ演奏の基礎力をつけるとともに、弾き歌いのレパートリーを増やす。また、コードネームを理解し、簡単な伴奏付け演奏ができる。					
授 業 の 概 要					
「音楽の楽しさ」を伝えられる保育士・幼稚園教諭となるために必要な、表現力・技術力をつける段階として、「歌うこと」「弾くこと」のレベルを上げる。					
成 績 評 価 の 方 法					
・実技試験 ・意欲、関心（主体的に学習に取り組む態度） ・思考、表現（音楽の内容、歌詞の内容などの理解と表現力） 以上を基に総合評価する。				期末試験	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本、 ジュニアクラスの楽典テキストワーク、随時配布するプリント					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数		時間数	
オリエンテーション		2	レッスン、弾き歌い、コードネーム (Dm)	4	
レッスン、弾き歌い、コードネーム (C)		4	レッスン、弾き歌い、コードネーム (Am)	2	
1 年次終了時の各自の進度に続き、以下の順に学習を進める。			レッスン、弾き歌い、コードネーム (Em)	2	
パイエル原書番号 65, 75, 76, 77, 78, 85, 88, 89, 90, 91, 93, 96, 98, 100, 102 番 *91, 93 番はどちらか1曲で構いません。			レッスン、弾き歌い、コードネーム (D7)	4	
			レッスン、弾き歌い、コードネーム (G, C, D7, G)	4	
			レッスン、弾き歌い、コードネーム (C, D7, G, C)	4	
			レッスン、弾き歌い、コードネーム (B b)	2	
			レッスン、弾き歌い、コードネーム (F, B b, C7, F)	4	
レッスン、弾き歌い、コードネーム (G7)		2	レッスン、弾き歌い、コードネーム (C, C7, F, G7, C)	2	
レッスン、弾き歌い、コードネーム (C, G7)		4	レッスン、弾き歌い、コードネーム (まとめ)	4	
レッスン、弾き歌い、コードネーム (F)		4	実技試験にむけてレッスン	16	
レッスン、弾き歌い、コードネーム (C, F, G7, C)		2	後期実技試験	4	
実技試験にむけてレッスン		16			
前期実技試験		4			
その他			関連科目		
			音楽Ⅰ・音楽Ⅲ		

シラバス（授業概要）				年 度	
				2023 年度	
時間数は 4 5 分換算				科目コード	
				H-K41	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
音楽Ⅲ			演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	90	3	中津川 百世
授業の目的・到達目標					
弾き歌いを中心に、歌詞の内容に興味を持ち、想像力を豊かにし、より深く理解する。 またレパートリーを増やしていきながら、すでに持っているレパートリーを強化し、保育現場で自信を持って、ピアノ伴奏に対応できる力をつける。 コードネームの意味を理解し、自分のレベルに合った伴奏付けを出来る様にする。					
授業の概要					
「音楽の楽しさ」を伝えることができる幼児教育者となる為に 必要な表現力、技術力を身に付ける段階として、「歌うこと」「弾くこと」のレベルを上げる。特に弾く事に関しては、個々で得意、不得意をきちんと認識し、不得意に対しての解決法を学んでいく。					
成績評価の方法					
・実技 うた ・授業での学習意欲、参加態度 ・課題 他 これらを総合的に評価する。				期末試験 課 題 学習意欲	50% 25% 25%
使用テキスト・教材					
近畿大学九州短期大学 音楽ピアノ教本 ピアノといっしょに 保育園、幼稚園でたのしめる 子どものうた大全集 (出版社 ケイ・エム・ピー) その他、必要に応じてプリントを配布					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1.生活のうた		8	6.秋のうた		6
2.実習準備(夏のうた)		12	7.冬のうた		6
3.春の歌		6	8.行事のうた		6
4.コード付		10	9.卒演のうた		8
5.前期試験対策		10	10.期末試験対策		10
6.前期試験		4	11.期末試験		4
その他			関連科目		
ピアノを演奏する事が楽しいと思えるようになる為にも、自主練習がとても大切になります。少しずつであっても、努力、進歩を感じる事ができる 1 年にしていきましょう。					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 度	
時間数は45分換算				科目コード	
H-K42					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
実習指導Ⅰ			その他	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	2	深澤 みほ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育実習・教育実習の意義、目的や各施設と役割について理解し、自らの課題を明確にできる。また、実習へむけて必要な知識、マナー、子どもとの関わり方を身に着け、実習に対する不安や困難を軽減する。					
授 業 の 概 要					
・テキストを使用しながら、実習に必要な知識、マナー、子どもや保育者との関わり方、トラブルが起きた時の対策など具体的に学び、実習で活かせるようにする。また、実際にこども園へ見学に行き日誌の記入の仕方について学ぶ。 ・テーマに沿っての自分の考えや不安をグループやクラスで話し合う中で気持ちを共有する。また、不安をそのままにせず解決策を考えたり提示したりすることで自信を持って実習に臨めるようにする。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲（授業態度・グループワークでの取り組みや発表）、課題（保育に関する実技課題・実習課題・保育漢字テスト）を総合的に評価する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・幼稚園・保育園事前実習指導（近畿大学九州短期大学発行） ・自分てつくるBOOK&NOTE－教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう－（同文書院） ・保育の基本用語 ・保育のマナーと言葉 （わかば社）他					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション 保育者に求められる資質		2	8. オリエンテーション 保育所見学に向けて観察のポイント		2
2. 実習の目的		2	9. 保育所見学		4
3. 実習の課題Ⅰ		2	10. 「実習オリエンテーション」について・保育者の仕事を学ぶ		8
4. 実習の課題Ⅱ		2	11. 日誌・指導案の書き方		6
5. 安心して実習に挑む為に 保育者になる為に今できること		4	12. 実習に役立つ教材製作		6
6. 安全や健康衛生の理解		4	13. 実習に向けての心構え		4
7. 実習の決定にあたって 電話の掛け方		4	14. 実習直前指導		4
			15. 自主実習を終えてⅠ		2
			16. 自主実習を終えてⅡ		2
			17. まとめ		2
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である			・実習指導Ⅱ ・実習指導Ⅲ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2022 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
授 業 科 目 名				学 科 ・ コース	
実習指導Ⅱ				こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育実習・教育実習の意義、目的や各施設と役割について理解し、自らの課題を明確にできる。また、実習へむけて必要な知識、マナー、子どもとの関わり方を身に着け、実習に対する不安や困難を軽減する。					
授 業 の 概 要					
・テキストを使用しながら、実習に必要な知識、マナー、子どもや保育者との関わり方、トラブルが起きた時の対策など具体的に学び、実習で活かせるようにする。また、実際に実習で役立つ教材などを製作する。 ・テーマに沿っての自分の考えや不安をグループやクラスで話し合う中で気持ちを共有する。また、不安をそのままにせず解決策を考えたり提示したりすることで自信を持って実習に臨めるようにする。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲（授業態度・グループワークでの取り組みや発表）、課題（保育に関する実技課題・実習課題・保育漢字テスト）を総合評価したうえで決定する。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（同文書院）・実習日誌の書き方（萌文書林） ・幼稚園・保育所・施設実習ワーク（萌文書林）他					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション			12. 保育実習Ⅰを終えて		2
実習とは・実習生とは（自主実習振り返り）	4		13. 教育実習①に向けて		2
2. 幼稚園・保育所・施設の理解	4		14. 指導計画の立て方②		6
3. 保育者に望まれる資質	2		15. 実習直前準備		4
4. 実習生と子どもとのかわり	2		16. 教育実習①を終えて		2
5. 保育者や職員とのかわり	2		17. まとめ		4
6. 子どもの園生活	2				
7. 指導計画のたてかた①	6				
8. 実習日誌の書き方	6				
9. 実習課題の立て方	2				
10. 実習直前準備・保育実習Ⅰに向けて	6				
11. 実習生として守るべきこと	4				
その他			関連科目		
			・実習指導ⅠS ・実習指導ⅢS		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード		H-K45	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
レクリエーション			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	通年	必修	30	2	実務経験のある教員		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
年齢や目的、場面に合わせたレクリエーションを企画し、提供できる。 様々なレクリエーション活動を通してレクリエーションの技術を身に着けることができる。							
授 業 の 概 要							
レクリエーションとは何かを学び、楽しさを味わいながらレクリエーション指導の技術やアイデアを身に着けていく。また、様々な場面や目的・人数に応じたレクリエーションの意義を考察し、グループワークを通して身近な素材を使いオリジナルのレクリエーションやボードゲームを企画制作できる技術も身につけていく。							
成 績 評 価 の 方 法							
課題（小レポート）の評価点、学習意欲（グループワーク・発表含む）を総合評価したうえで決定する。						課 題	70%
						学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
・中学生・高校生でも盛り上がる！学級レク厳選 120（ほんの森出版）							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. アイスブレイク …レクリエーションの楽しさを味わう			時間数 2	4. オリジナルボードゲーム制作 （グループワーク）			時間数 8
2. レクリエーションとは			2	5. ボードゲーム体験会 （ゲームのプレゼン）			3
3. 年齢・目的に応じたレクリエーション				6. まとめ			1
3-1 乳幼児向けのレク			2				
3-2 学童向けのレク			3				
3-3 学生向けのレク			3				
3-4 会社で行うレク			3				
3-5 高齢者向けのレク			3				
その他				関連科目			

シラバス（授業概要）					時間数は45分換算		年 度	2023 年度
							科目コード	H-K46
授 業 科 目 名				授 業 形 態		学 科 ・ コー ス		
リトミック				講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担 当 教 員			
3	通年	必修	60	2	中津川 百世			
授業の目的・到達目標								
こどもの年齢に合ったティーチング、リズム、リズム演奏法が出来るようになる。 基礎リズムを習得し、リズム演奏やうたの伴奏などの読譜力の向上につなげる。 実際に、子どもたちに、リトミックを楽しく体験させられる指導力を身に付ける。								
授業の概要								
幼稚園、保育園、こども園、支援学校等で コミュニケーション能力を高められるよう、こどもの年齢に合ったティーチング、リズム、リズム演奏法を学ぶ。								
成績評価の方法								
期末試験、授業での学習意欲、参加態度、課題の取り組み方などを総合的に評価した上で決定する。					期末試験	40%		
					課 題	20%		
					学習意欲	40%		
使用テキスト・教材								
その都度、必要な資料を配布。								
授業内容・授業計画								
			時間数				時間数	
1.オリエンテーション			1					
2.楽しいリトミックの経験			10					
3.基本的な動き			10					
4.ティーチング			6					
5.リズムの演奏法			10					
6.基礎リズム			9					
7.リトミックの論理			2					
8.まとめ、実践			8					
9.期末試験			4					
その他				関連科目				
動きやすい服装で参加して下さい。 筆記用具持参								

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算				科目コード		H-K47	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
制作演習 I			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	2	深澤 みほ		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
領域「表現」におけるねらいや内容と照らし合わせながら、保育における制作の教育的意義を理解し、保育を展開できる知識と技術の基礎を身に着ける。							
授 業 の 概 要							
領域「表現」におけるねらいと内容を学び、制作活動の教育的意義を理解する。また、制作演習を通して様々な素材や用具に触れ、その特徴を理解しながら、知識や技術の基礎を培う。							
成 績 評 価 の 方 法							
授業での積極性や課題提出などを学習意欲として評価。 制作物は協同性・完成度・提出時期を含めて課題として評価する。						課 題	60%
						学習意欲	40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
幼稚園教育要領、保育所保育指針、連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館） 必要に応じてプリント配布							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数				時間数
1. 誕生表の作成（グループワーク）			4				
2. 保育における制作と子どもの発達 （領域「表現」のねらい・内容、 その他領域との関連性をふまえて）			4				
3. 基本的な用具の扱い方・片付け方 雑巾の作成			2				
4. 名札作り			4				
5. 壁面制作（グループワーク）			6				
6. 劇遊びに生かす絵本作り			4				
7. 身近な素材のおもしろさ			4				
8. 制作物発表			2				
その他				関連科目			
				劇あそび 児童文化、造形表現（指導法）、実習指導			

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K48
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
制作演習Ⅱ			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	深澤 みほ	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
素材の特性を理解し、子どもの発達を踏まえて、実習や保育の現場で生かせるような制作の方法や保育への展開の仕方を理解する。						
授 業 の 概 要						
制作の教育的意味を振り返り、子どもの発達を促す制作遊びとはどのようなものであるのか、実践を通して子どもの目線に立ち学ぶことで、実習や保育の現場で生かせる知識と技術を養う。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業での積極性や理解度、グループワークでの協同性や積極性を学習意欲として評価する。 制作物の完成度と提出時期を課題として評価する。					課 題	60%
					学習意欲	40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
幼稚園教育要領、保育所保育指針、連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. 保育における制作とは （1年次の振り返り）			2			
2. 実習に生かす遊べる玩具づくり （留意点と技術・導入方法を学ぶ）			8			
3. 自然物を用いた制作と遊び			4			
4. 壁面制作（グループワーク）			4			
5. 制作からつながる遊び			4			
6. お店屋さんごっこ （導入～展開）			8			
その他			関連科目			
			制作演習Ⅰ、Ⅲ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K49
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
制作演習Ⅲ			演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	戸塚 恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
子どもの成長につなげるために、特性や発達段階に沿った制作遊びの導入・展開ができるようになる。様々な道具や素材を臨機応変に制作に取り入れるための知識と経験を蓄える。					
授 業 の 概 要					
保育における制作遊びの意義と子どもの発達過程を理解した上で、年齢や特性に応じた制作遊びの導入と展開について実践を通して学ぶ。教育要領や保育指針と実習の経験を踏まえて、各自で指導案を作り模擬授業を行う。					
成 績 評 価 の 方 法					
通常授業での積極性や理解度と模擬授業での積極性を学習意欲として評価する。 制作物や指導案の完成度や提出時期を課題として評価する。					課 題 60% 学習意欲 40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
幼稚園教育要領、保育所保育指針、連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション 制作演習を学ぶにあたって 造形と発達の復習 2. 子どもの発達と制作あそび 発達に応じたあそびにつなげる ① 0.1 歳児の制作 ② 2.3 歳児の制作 ③ 4 歳児の制作 ④ 5 歳児の制作	時間数				時間数
	2	3. お楽しみに使える制作 遊べる工作（グループワーク） 4. 指導案作成			9 4
	10	5. お楽しみ会を実施しながら発表			3
その他			関連科目		
			制作演習Ⅰ、Ⅱ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-K50	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
絵本教育 I			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
絵本の特性について理解できる。 絵本の子どもと絵本の関係や役割について説明できる。 様々な絵本を知り子どもの年齢に応じた絵本の選定や読み聞かせができる。					
授 業 の 概 要					
多くの絵本に触れながら、まずは学生自身が絵本を楽しむことから始める。 保育現場で絵本がどのように活用され、子ども達に親しまれているか事例を交えながら話していく。また、一年次に「児童文化」の授業で触れた子どもと絵本の関係、絵本の特性についても更に詳しく学ぶ。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題（授業で学んだ内容のレポート）、学習意欲（授業態度や発表等の積極性）を総合して評価する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ 保育をゆたかに絵本でコミュニケーション（かもがわ出版） ・ 絵本を学ぶ子どもの文化（同文書院）・このほんば〜った！（静岡市立図書館）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2	7. 発達に応じた絵本の選び方1		4
2. 児童文化財「絵本」を振り返る		2	6-1 赤ちゃん絵本、ブックスタートとは		2
3. 絵本と親しもう		2	6-2 幼児向き絵本		2
3-1 子どもにとっての絵本		2	8. 絵本の読み方実践		4
3-2 読み聞かせ、読み合わせとは		2			
(絵本を読むということ)		2			
4. 絵本と子ども（家庭、保育の現場で）		2			
5. 絵本と子どもの発達		4			
6. 様々な絵本					
その他			関連科目		
・グループディスカッションや発表を多く取り入れる			絵本教育Ⅱ		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K51
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
絵本教育Ⅱ			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必修	60	2	森主 あゆみ	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
・ 認定絵本土の役割について理解する。 ・ 認定絵本土に必要な絵本に関しての「知識」「技能」「感性」を身に着ける。 ・ 様々な分野や角度から絵本の基本的知識について深める。						
授 業 の 概 要						
本科目は、認定絵本土養成講座カリキュラム及びガイドラインに基づき行われる。絵本総論及び各論を学ぶ中で認定絵本土に必要な「知識」「技術」「感性」を深め学んでいく。						
成 績 評 価 の 方 法						
課題の評価点、学習意欲を総合評価して決定する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課題 演習	50 % 50 %
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
認定絵本土養成講座テキスト（中央法規出版）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. オリエンテーション			2	9. 絵本の持つ力		2
2. 絵本総論（絵本とは何か）			2	（さまざまな角度から絵本を見る）		
3. 絵本各論 （絵本の歴史・絵本賞・視覚表現・言語表現・ 絵本の関わり・絵本の位置づけ）			8	10. 心に寄り添う絵本 （心のケアと絵本の可能性）		2
4. 様々なジャンルの絵本 （物語・昔話・童話・科学絵本）			6	11. 絵本のある空間 （絵本のある望ましい空間）		2
5. 絵本と出会う （保育、教育現場・図書館・書店）			8	12. 子供の心をとらえるもの （子供の心をとらえて離さないもの）		2
6. 絵本の世界を広げる技術 （絵本を探す・ワークショップ・絵本コンシ エルジュ）			6	13. 大人の心を豊かにする絵本 （大人にこそ絵本を）		2
7. 絵本を紹介する技術 （ブックトーク・書評・紹介文等）			6	14. 絵本ホスピタリティに学ぶ （人を楽しませるための手法）		2
8. おはなし会の手法 （意義と目的・テクニック）			4	15. 絵本が生まれる現場 （作家の感性に触れる・絵本の編集）		4
				16. ディスカッション （絵本専門士としての今後の活動）		2
その他				関連科目		
				絵本教育Ⅰ		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
自然教育				こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
幼児教育における自然体験活動の位置づけを理解し、自分なりの見識を持つことができる。 ネイチャーゲームを通して子どもの年齢や発達、興味に応じた自然体験活動を計画できる。 秋の自然物（どんぐり等）を使って幼児向けのゲームを企画・制作できる。					
授 業 の 概 要					
自然体験活動（ネイチャーゲーム）を通して感じたこと等アクティブラーニングを通して他の学生と共有しながら、保育者としての役割を考えていく。授業後半では、幼児向けのどんぐりゲームを企画・制作し、実際に子どもがゲームで遊ぶ姿を視聴しながら発達や興味関心を考察する。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲（授業態度）、課題（グループワーク・どんぐりゲーム制作）を総合的に評価する。					課 題 70% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・ 体験と学びを深めるネイチャーゲーム（日本シェアリングネイチャー協会） ・ その他必要に応じてプリントを配布する。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. アイスブレイク		時間数	4. どんぐりゲーム制作		時間数
		2			8
2. 自然体験活動(ネイチャーゲーム体験)			5. 動画視聴		
2-1 幼児教育編		2			2
2-2 小学校教育低学年編		2	6. どんぐりゲーム体験会		3
2-3 小学校教育高学年編		2			
2-4 特別支援・オンライン授業編		2	7. まとめ		1
3. 自然体験活動計画・実践 (グループワーク)		6			
その他			関連科目		
			レクリエーション		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2022 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-K53	
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス
交流ゼミ I			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	深澤 みほ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校内・校外の講師や同じ目的を持つ学生・実習生と交流を持つことで、今後の進路選択に役立てる。 普段の授業では学べない特別講座を通じて、実践力を身につけることができる。					
授 業 の 概 要					
保育特別講座を全4回に渡って開催し、保育・教育分野への興味を抱き、自ら進んで制作などの技術を学ぶ。 また、ボランティアや実習時に使える教材や遊びなどを多く学習する。					
成 績 評 価 の 方 法					
保育特別講座後のレポート提出(課題)によって評価する。 また、実習報告会での報告書や発表の姿勢(学習意欲)なども評価の対象とする。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 保育 WELCOME パーティー (4月)			4	9. 園見学(9月)	4
2. 保育特別講座① (5月)			2	10. 児童養護施設見学会(2月)	4
「絵本講座」					
3. 保育特別講座② (6月)			4		
4. 「絵本講座 (選び方・読み方)」					
5. 保育特別講座③ (6月)			4		
6. 「園長講座・施設長講座」					
7. 保育特別講座④			4		
「鈴木翼 あそび講座」					
8. 保育実習報告会			4		
「2年生による報告会」					
その他				関連科目	
				交流ゼミⅡ・Ⅲ	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-K54
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
交流ゼミⅡ			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	2	深澤 みほ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校内・校外の講師や同じ目的を持つ学生・実習生と交流を持つことで、今後の進路選択に役立てる。 普段の授業では学べない特別講座を通じて、実践力を身につけることができる。					
授 業 の 概 要					
保育特別講座を全4回に渡って開催し、保育・教育分野へのモチベーションを高める。 また、実習時に使える教材や遊びなどを多く学習する。					
成 績 評 価 の 方 法					
保育特別講座後のレポート提出(課題)によって評価する。 また、実習報告会での報告書や発表の姿勢(学習意欲)なども評価の対象とする。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		時間数
1. 自主実習報告会①			6	6. ボランティア	4
2. 保育特別講座②(5月)			2	(子育て支援センター)	
「絵本講座：				7. ボランティア報告会	4
全ての子供たちに絵本を」				8. クリスマスパーティー	2
3. 実習報告会			4		
4. 保育特別講座④(9月)			4		
「鈴木翼 あそび講座」					
5. 実習報告会			4		
その他				関 連 科 目	
				交流ゼミⅠ・Ⅱ	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
授 業 科 目 名				科目コード	
授 業 形 態				H-K55	
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
交流ゼミⅢ				こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	2	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
校内・校外の講師や同じ目的を持つ学生・実習生と交流を持つことで、今後の進路選択に役立てる。 普段の授業では学べない特別講座を通じて、実践力を身につけることができる。					
授 業 の 概 要					
より実践的な保育特別講座を全5回に渡って開催し、就職先で実際に使える知識・技術を高める。 また、クリスマス会は企画から運営まで学生が主導する。					
成 績 評 価 の 方 法					
保育特別講座後のレポート提出(課題)によって評価する。 また、実習報告会での報告書や発表の姿勢やイベント報告書(学習意欲)なども評価の対象とする。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
なし					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. 療育施設見学			4		
2. 実習報告会			4		
3. 1年生への制作講座準備					
4. 保育特別講座①			4		
「1年生への制作講座」			4		
5. 実習報告会					
6. 実習報告会			2		
7. 保育特別講座②			4		
「鈴木翼 あそび講座」			4		
8. 保育特別講座③					
「クリスマス会」			4		
その他				関連科目	
				交流ゼミⅠ・Ⅱ	

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K56
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
保育スキルアップ講座			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必修	60	4	紅林江身子・小笠原香奈	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
自らが楽しんで取り組み、実践授業を通して保育現場で自信を持ち指導できるような指導テクニックを身につける。 また、様々な表現を学び保育に活かす方法を検討する。						
授 業 の 概 要						
“遊び” から始まる日常の保育の展開や実践的指導力の向上を図り、さらに園内の行事プログラムの指導計画まで発展させる。 また指導者の資質を理解し、実践力を身につける。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験。学習意欲・レポート提出を総合的に判断する					期末試験	30%
					課 題	30%
					学習意欲	40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
なし						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
◎テキスト Speaking of Childcare より ◎歌やアクティビティ ◎コミュニケーション力について ◎試験 中学英語 保育の為の基礎英語 レポート			時間数	◎運動会におけるの身体表現 (旗・パラバルーン・フラフープ等) ◎サーキット運動 ・子どもが自然に体を動かす仕組み作り ◎Cooking Activity ・様々な投げる動き ◎縄跳び ◎Halloween Activity ◎様々な鬼ごっこ ◎海外の運動遊び ◎Safari Activity ・ネイチャーゲームから始まる保育 ◎衣装製作 ◎運動会プログラム発表・まとめ		時間数
			12			6
			10			
			4			4
			4			
						4
						4
						2
						2
						2
						2
						2
						2
						2
その他			関連科目			
【持ち物】 運動靴・運動できる服装・縄跳び						

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-K57
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
卒業研究			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	通年	必須	60	2	森主 あゆみ 小笠原 香奈 大須賀 千尋	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
保育・教育分野から主要なテーマを一つ選定し、研究する。 個々の到達目標を達成し、研究をまとめ発表できる。						
授 業 の 概 要						
保育・教育の分野から一テーマ選び、研究発表する。発表形式は、テーマによりプレゼンテーション形式または表現発表となる。 また、研究内容については、論文としてまとめ提出する。						
成 績 評 価 の 方 法						
研究意欲・論文提出・発表内容を総合的に評価する。					発 表	40%
					論 文	30%
					研究意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
テキスト：なし						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. 卒業研究とは・グループ決め・ テーマ選定 2. 卒業研究 3. 論文作成 4. プレゼンテーション準備 5. 発表			時間数			時間数
			6			
			20			
			10			
			20			
			4			
その他				関連科目		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
				科目コード		H-S01	
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス		
英会話 I S			講義		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選 択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	20	1	紅林 江身子		
授業の目的・到達目標							
ネイティブ講師を交え簡単な英語表現を経験させる園などが増えつつある中で、そのことを念頭におきつつ、保育士の立ち位置や役割を踏まえ、保育士各々の英語力アップを図る。							
授業の概要							
主に保育のための基礎英語力をつける。 英語の歌やアクティビティを通じ、講師や子供の立場を経験し、他国の文化を学び知識を増やす。また異文化や英語でのコミュニケーションを楽しむ。							
成績評価の方法							
期末試験（文法、フレーズ、単語など）による評価。 学習意欲の評価として ・コミュニケーション能力での評価。 （日本語でも自分の意見や考えアイディアなどを出せる。他の生徒とシェアできる） ・英語でのコミュニケーション能力での評価。 （拙い英語でも、相手に伝えようとする姿勢や、聴こうとする力） ・授業態度や、英語学習への意欲や積極性への評価を加味する					期末試験	50%	
					課 題	25%	
					学習意欲	25%	
使用テキスト・教材							
・ Happy English for childcare（KINSEIDO） ・ 中学 3 年分をたった 7 日で総復習（学研プラス）より抜粋							
授業内容・授業計画							
1. テキスト Happy English for childcare より Unit1ー15 まで 2. 歌やアクティビティ 3. 試験 中学英語 保育の為の基礎英語 レポート			時間数 16 2 2			時間数	
その他				関連科目			
				英会話 I			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-S02	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
生涯スポーツ S			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・生涯スポーツの意義や目的を理解し、スポーツの在り方について学びを深める。 ・「タグラグビー」や「ソフトバレー」等を通して、コミュニケーション力の大切さを実体験する。 ・グループワークを取り入れて「スポーツの楽しさとは何か」を追求する。					
授 業 の 概 要					
生涯スポーツにおける最大のキーワードでもある「いつでも、どこでも、誰でも」を、ソフトバレー、アルティメット、タグラグビー、スポーツ鬼ごっこ等を軸に実践しながら学びを深めていく。 また、グループワークを通して楽しみ方の工夫やアレンジ力、コミュニケーション力を豊かにし、様々な状況や環境に対して、臨機応変に活動を展開していく力を養う。					
成 績 評 価 の 方 法					
授業全体を通して学んだことや生涯スポーツとの向き合い方等をレポートとしてまとめる。 また、演習の積極性や態度を重点的に評価し、個々のコミュニケーション力も評価の対象とする。				学習意欲・態度	50%
				課題レポート	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・各種スポーツで使う用具					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション・アイスブレイク		2	6. 生涯スポーツ実践		
2. 生涯スポーツの意義と役割		2	(アルティメット)		
3. 生涯スポーツ実践 (ソフトバレー)			①ルールと楽しみ方の理解		2
①ルールと楽しみ方の理解		1	②試合形式で楽しむ		3
②対象年齢による楽しみ方の工夫		2	7. 生涯スポーツ実践		
(グループワーク)			(スポーツ鬼ごっこ)		
③試合形式で楽しむ		3	①鬼ごっこの文化と歴史		1
4. 生涯スポーツ実践 (タグラグビー)			②様々な鬼ごっこを体験する		1
①ルールと楽しみ方の理解		2	⑤試合形式で楽しむ		2
②試合形式で楽しむ		3	8. まとめ・レポート作成		1
5. 生涯スポーツ実践 (ポートボール)					
①ルールと楽しみ方の理解		2			
②戦術の工夫・試合		3			
その他			関連科目		
			健康科学		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S03	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
情報処理入門 IS			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	島田 幸紀
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育・教育の分野でICTのスムーズな活用を行うために、コンピュータのデータ表現、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティについて理解する					
授 業 の 概 要					
情報処理入門 I で学んだことを基礎に、ICT の今後の活用について学ぶ。 また、活用の方向性やネットワークについて理解する。					
成 績 評 価 の 方 法					
授業内での課題と学習意欲を総合的に評価する。					課 題 70% 学習意欲 30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
保育者のためのパソコン講座（阿部正平・阿部和子・二宮祐子 著）萌文書林出版					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. ネットワークを学ぼう	時間数	Unit1 保育の場での E メール使用を 考えてみよう			時間数
■コンピュータ・ネットワーク		■SNS の活用など			10
・インターネット	1	・幼稚園・保育所での活用方法			
・携帯電話やスマートフォンによる通信		・事例検索・まとめ			
・クラウド・サービス	1	・今後の展開			
・IoT		・考察（レポート提出）			
■Web サイト					
・Web サイトのしくみ	2				
・幼稚園や保育所（園）での コンピュータ及び ネットワーク利用	2				
■電子メール（E メール）					
・メールの送受信	1				
・メールの返信・転送	1				
・メール送受信でのマナー	2				
その他		関連科目			
		情報リテラシーⅠ・Ⅱ・Ⅲ 情報処理入門Ⅰ			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S04	
授 業 科 目 名			授 業 形 態	学 科 ・ コー ス	
幼児と音楽表現S			講義・演習 アクティブラーニング	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	竹中 紀江
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
幼児教育に携わる保育者の音楽の技術の習得や、資質の向上が出来る。 アンサンブルによって個々の能力を高め合い音楽の楽しさを知る事が出来る。					
授 業 の 概 要					
日頃の練習の成果を発表する場を設け、お互いの演奏を聴き合う。 発声法の基本と読譜力をつけ、子どもの歌のレパートリーを増やす。歌唱に伴うピアノ伴奏の移調法を学ぶ。楽器演奏に必要な知識や技術を学び、アンサンブルの楽しさを学ぶ。					
成 績 評 価 の 方 法					
授業への積極的参加				発 表	60%
授業内での発表および課題				課 題	20%
以上を総合的に評価する				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
教科書：「音楽(ピアノ教本)」「音楽(声楽教本)」 必要に応じて楽譜プリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. ピアノ発表会 発表会にて日頃の練習の成果を発表し、お互いの演奏を聴き合い、感想を述べる			時間数 4	4. 幼児音楽のいろいろな歌 実習に合わせた曲を選曲。 個々のレベルに合う弾き歌い	時間数 2
2. ミュージックベルアンサンブル 身近な曲から、ベルに相応しい曲を選曲、英米音名を学び、音程の感覚を養う。			4	5. 合唱・器楽アンサンブル 楽器の特徴を捉え、リズム譜を理解する。自分のパートに責任を持つ。	4
3. 歌唱に伴う移調法 歌いやすい調性を理解する。また、自分で楽譜を書きあげ、見やすい額を作り上げる。			4	6. アンサンブルの発表 まとめ	2
その他				関連科目	
※実務経験のある教員が担当する科目である。				音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 音楽表現（指導法）S 音楽表現技術S	

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
				科目コード		H-S05	
授 業 科 目 名				授業形態		学科・コース	
音楽表現技術 S				講義・実技		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	20	1	竹中 紀江		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
幼児教育に携わる保育者のさらなる音楽の技術の習得や、資質の向上ができる。 アンサンブルによって個々の能力を高め合い、音楽表現の強化ができる。							
授 業 の 概 要							
日頃の練習の成果を発表する場を設け、お互いの演奏を聴き合う。 子どもの歌のレパートリーを増やし、歌唱に伴うピアノ伴奏の編曲と移調法を学ぶ。アンサンブルの楽しさを感じながら、楽器演奏に必要な知識や技術のさらなる習得と、合唱における発声法を学び、音楽の表現方法を学ぶ。							
授業への積極的参加 授業内での発表および課題 以上を総合的に評価する						発 表	60%
						課 題	20%
						学習意欲	20%
教科書：「音楽(ピアノ教本)」「音楽(声楽教本)」 必要に応じて楽譜プリント配布							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1、ピアノ発表会 発表会にて日頃の練習の成果を発表し、お互いの演奏を聴き合い、感想を述べる			時間数	3、 幼児音楽のいろいろな歌 実習に合わせた曲を選曲。 個々のレベルに合う弾き歌い			時間数
			4				4
2、 幼児音楽のピアノ伴奏編曲と移調 自分のレベルに合うピアノ伴奏を編曲し楽譜を書きあげ、実践する。			4	4、 合唱・器楽アンサンブル 自分のパートに責任を持ち、速度や強弱などの表現方法を学ぶ。 6、アンサンブルの発表 まとめ			4
							4
その他				関連科目			
				音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 音楽表現(指導法) 幼児と音楽表現S			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度
時間数は45分換算				H-S06	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
幼児と造形表現 S			講義・実技	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	戸塚 恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
様々な素材や表現方法を通して自己表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組むことで、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的造形教育指導の習得を目指す。					
授 業 の 概 要					
デカルコマニー、マーブリング、スクラッチ、スパッタリングなど図画の基礎的技術の習得とそれらを応用した作品制作。粘土や工作を通して、道具や材料の使い方安全指導を学びながら作品を制作。それぞれの作品作りの感想をまとめながら指導に生かすポイントを精査する。					
成 績 評 価 の 方 法					
基礎的技術の取得度合い、作品の完成度、感想や制作ポイントのまとめ学習意欲を総合的に評価する。					課 題 80% 学習意欲 20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
画用紙、絵の具、スパッタリング、割りばし、粘土、糊、ハサミ、カッター、接着剤、各自必要な工作材料など					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数			時間数
1. 幼児の表現の発達について復習		2	11..作品鑑賞発表会とまとめ		2
2. デカルコマニー(合わせ絵)					
3. スタンピング(たたき絵)		2			
4. スクラッチ					
5. ドリッピング (ふき絵)		2			
6. マーブリング					
7. スパッタリング		2			
8. フロッタージュ		2			
9. オリジナル作品制作		2			
10. 立体制作 (飛び出すカード)		2			
立体制作 (紙粘土)		4			
その他			関連科目		
			造形表現 (指導法)		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2022 年度 H-S07
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
教育心理学S			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	磯部 隆
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 保育者としての子どもの動機付け、学び、記憶、思考、また、パーソナリティ（人格、及び人格形成）の理解を深め、保育活動に活かせるようになるために学ぶ。また、保育や教育に活かす心理学の学びを深める。					
授 業 の 概 要					
子どもの学習、学習の基本原理、記憶、記憶のしかた、思考、知能、学ぶ意欲、遊び、教育評価及びパーソナリティのスキルや知識を深められるよう基本的なレクチャーと、演習を織り込み講義をする。					
成 績 評 価 の 方 法					
試験は、授業で取り上げたことを中心に基本的なことが理解されているかを問う。また、課題については、一定の授業を終えてのミニレポートを提出する。加えて各時間の授業への取り組みの姿勢や態度を問う。なお、ミニレポートは、まとめる力や表現の仕方をレッスンすることを含む。					期末試験 60% 課 題 20% 学習意欲 20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・「よりよく生きるための心理学」 磯部 隆著 中部印刷					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
			時間数		
1. オリエンテーション			1		
学習の仕方、ミニレポートのまとめ方					
2. 脳の働きと動機付け			2	8. 子どもの遊び	
3. 脳の働きと願望と行動と認知			2	9. 学習と思考	
				10. 知能と教育評価	
4. 学習心理			2	11. パーソナリティ	
5. 学習の原理			2	類型論、特性論、分析理論ほか	
6. 記憶			2		
7. 記憶の原理			1		
その他				関連科目	
				幼児の心理	

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S08
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
健康 (指導法) S			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	20	1	田村 都弥	
授 業 の 目 的 ・ 目 標						
子どもの身体発達の特徴を知り、子どもが進んで身体を使ったあそびを楽しむような保育の指導と援助が理解できる。						
授 業 の 概 要						
学生自身がいつの間にか楽しんで身体を動かししていたという体験をする中で、集団や個、安全性や興味づけの方法など子どもたちが、安全で楽しくあそぶ方法を探っていく。健康で安全に生活することの意識づけについて考察する。						
成 績 評 価 の 方 法						
通常授業での積極性や協力的な学びの姿 レポート等での理解度 を総合的に評価する					課 題	50%
					学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教科書なし。適時プリント配布 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. オリエンテーション			時間数	6. 身体を動かす遊びの実践と考察 (器具を使ったあそび・縄あそび・ 伝承あそび)		時間数
2. 現在のこどもを取りまく環境について 考え、幼児体育の必要性と役割について 考察する			1	7. 安全管理と緊急対応		4
3. スキャモンの発育発達極性をもとに、幼 児の身体の育ちの特性を学ぶ			3			2
4. 身体を使ったあそびの実際と考察 「徒手運動」「ゲームあそび」「ボールあ そび」「日用品を使ったあそび」			4			
5. リズムあそびやパラバルーンを使った あそびを通して子どもの動きを知る			4			
2						
その他			関連科目			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S09	
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス
人間関係 (指導法) S			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	榛葉 幸子
授 業 の 目 的 ・ 目 標					
人との豊かな「かかわり」を育てる保育者としての役割と視点という側面から、実践的課題に触れ、保育の指導能力を育成する。					
授 業 の 概 要					
保育者自身が実際に様々な経験をする中で、「面白い」「なんでだろう」「なるほど」を体験し、子どもたちの姿を思い浮かべながら、実際の援助を考える。					
成 績 評 価 の 方 法					
通常授業での積極性や協力的な学びの姿 レポート等での理解度 を総合的に評価する				課 題	50%
				学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
教科書なし。適時プリント配布 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション 人間関係 (指導法) S の内容に興味を持ち、授業内容、学習方法を知る。			時間数 2		
2. 事例研究・グループディスカッション 愛着形成・自立心 自己主張と自己発揮 いざこざ・けんか 共感・思いやり 道徳性・規範意識 コミュニケーション能力 個と集団の育ち			14		
3. 子どもを取り巻く人間関係			4		
その他				関連科目	
				幼児と人間関係	

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S10	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
幼児と健康 S			演習	子ども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	小笠原 香奈
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
・ 幼児期運動指針の要点や現代の子ども達における問題を理解し、保育に活かせるようになる。 ・ 正しいアライメントで指導する技術を身につける。					
授 業 の 概 要					
幼児期に必要な運動プログラムを学び実践する事で、保育者としての技術を身につけ、さらに保育者の資質についても学び、実践力向上を図る。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習意欲・レポート作成				課 題	50%
				学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
【参考文献】 ・ 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 ・ 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 ・ 日本発育発達学会 『幼児期運動指針 実践ガイド』 杏林書院 ・ KIDS BICSHANDBOOK 日本子どもフィットネス協会 ・ 野津直樹、大浦賢治編著 『実践につながる新しい幼児教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
		時間数		時間数	
◎オリエンテーション		2	◎雨の日の身体を使った遊び	2	
◎幼児期運動指針とは		2	◎世界の幼児教育・保育と	2	
◎幼児期運動指針のポイント		2	日本の幼児教育・保育		
◎子どもの身体活動の現状と問題点		2	◎保育計画の立て方と実践	2	
/幼児期における運動の意義			◎レポート作成	2	
◎脳の発達について		2	◎保育者の資質とは	2	
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S11	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
造形表現 (指導法) S			講義・実技	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	戸塚 恵
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
制作活動を通して、素材や道具の特性と正しい使い方を身に付けることができる。切断・接着・異種素材の組み合わせ・塗装の基礎知識などを習得する。他の生活領域や表現分野とのかかわりに気を配りながら、造形表現を通して感動を伝え合う喜びを大切にできる様、造形の基礎から応用まで体験する。					
授 業 の 概 要					
造形の基礎となる、平面 (絵画・デザイン) 立体 (積み木) の作品制作を通して基礎的な技術を学び、幼児の造形活動への理解を深める。 制作した作品を使って実際に遊びをシミュレーションし、幼児の世界を体感しながらお互いの制作物についての理解を深める。					
成 績 評 価 の 方 法					
制作課題の完成度。集中力と取り組み、プレゼンテーション内容。					課 題 80% 学習意欲 20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
はさみ、カッター、定規、接着剤 (マルチボンドやテープ類)、段ボール、工作用の素材廃品 (容器類・箱・包装紙など)					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
子どもが遊んで楽しめるドールハウスと小道具を制作しよう！		時間数			時間数
① 制作概要		1			
② 制作計画・設計		3			
③ 材料確認とドールハウス制作		11			
a. 材料採寸切り出し					
b. 組み立て塗装					
c. 装飾					
④小道具づくり		4			
⑤制作物の発表		1			
その他			関連科目		
ごっこ遊び、見立て遊びを楽しむ工作					

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S12
授 業 科 目 名			授 業 形 態		学 科 ・ コー ス	
音楽表現(指導法)S			講義・演習 アクティブラーニング		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	20	1	竹中 紀江	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
人の心を動かし、体を動かす音楽を自己表現し、保育者に必要な柔軟性に富んだ発想力・表現力を身に付けることができる。						
授 業 の 概 要						
言葉だけでは伝わりにくいが、音楽を加えることによって、伝えやすく印象に残りやすい、その表現方法を学ぶ。子どもたちが楽しく覚えて歌うために「うた紙芝居」を使って歌の指導することを保育現場での一つの手段として学ぶ。体の動きをつけたボディーパーカッションでリズム感を養う。幼児音楽が子供に果たす役割を理解しリズムと言葉の面白さを感じながら自然な動きを用いて、表現する事を学ぶ。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業への積極的参加					発 表	60%
授業内での発表及び課題での評価					課 題	20%
以上を総合的に評価する					学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教科書：「音楽(ピアノ教本)」「音楽(声楽教本)」 必要に応じて楽譜プリント配布						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1、うた紙芝居の制作 ストーリー性のある幼児音楽を選曲、歌詞をイメージして絵を描き、紙芝居を制作。			時間数 2	3、うた紙芝居の曲のピアノ実践 2		
2、うた紙芝居を実践 導入：紙芝居のようにお話したり歌ったりして歌の内容を把握、どんな歌なのかイメージする 指導：まずはピアノ伴奏なしで子供たちと一緒に歌う。紙芝居によって長い歌詞を理解しやすくする。 発展：子どもたち自身が紙芝居を制作し、より興味を持たせる。			4	4、うた紙芝居の発表 2 5、ボディーパーカッション 2 6、自然な動きを用いてリズムと言葉の面白さのある幼児音楽 4 7、広がる音楽表現 4		
その他				関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。				音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 幼児と音楽表現S 音楽表現技術S		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S13	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
環境 (指導法) S			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	田村 都弥
授 業 の 目 的 ・ 目 標					
自然体験や生活体験の中で出会う身近なものを使って、子どもが興味を持って関わりを深めていく保育の指導能力を育成する。					
授 業 の 概 要					
学生自身が実際に授業の中で、「不思議」「面白い」「なんでだろう」「なるほど」を体験し、子どもたちの姿を思い浮かべながら、実際の保育計画や援助を考える。					
成 績 評 価 の 方 法					
通常授業での積極性や協力的な学びの姿 レポート等での理解度 を総合的に評価する				課 題	50%
				学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
教科書なし。適時プリント配布 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション	時間数	1	6. 環境について保育現場での指導方法を考察する	時間数	4
2. 領域のねらいと内容について	1		7. (保育活動) 実践演習	2	
3. 自然物の中でのあそび方 (実践) 自然物の特性を知る	4				
4. 自然物を使ったあそび (実践)	4				
5. 自然環境で気づいたり、学んだりした体験の中から考察して発表する	4				
その他			関連科目		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-S14
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
言葉 (指導法) S			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	20	1	森主 あゆみ	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
領域「言葉」のねらいや内容について深く考える。 言葉を育てるためには、どのようにすれば良いかを学び保育する楽しさや実践力をつける。 自分の言葉を見つめ直し、言葉の持つ楽しさや美しさに気付き豊かな感性を持つ						
授 業 の 概 要						
年齢、季節にあった絵本や紙芝居の選び方・読み方の演習、言葉を楽しむ演習をする。 場面に合った言葉掛けや会話を想定しながら言葉の可能性をグループで発表し、掘り下げて考察する。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業態度 (意欲・積極性)・製作物の完成度、発表・考察を総合的に評価する。 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					授業態度	50%
					製作物	50%
					(発表)	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
印刷物 製作に必要なもの (のり・はさみ・マジック・セロテープ等)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. オリエンテーション…自己紹介 2. 絵本について 3. 場面選び 4. グループ活動 5. 発表・考察			時間数	11.手遊び、言葉遊び 12.児童文化財について 13.年齢 季節に合った選書方法 14.玩具、教具について 15.製作・発表		時間数
			1			1
			1			1
			1			1
			1			1
			6			6
その他			関連科目			
			幼児と言葉			

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-S15
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
社会的養護 IIS			演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必須	20	1	工藤 豪	
授業の目的・到達目標						
社会的養護の実践に携わるために必要な知識や援助技術を身につけるとともに、施設養護・家庭養護の実践と方法における特質・課題について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。						
授 業 の 概 要						
社会的養護 I で学習した基本的知識を踏まえ、社会的養護に求められる専門性や施設養護・家庭養護の実践における特徴、今後の展望および課題などについて考察し、現代社会の社会的養護を担う保育者・養育者としての役割を果たせるよう、多角的視点から理解を深めていく。						
成 績 評 価 の 方 法						
スクーリングの最後にテキスト・ノート・資料等を参照しながら行う到達度確認(確認作業)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等(課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など(学習意欲)、以上から総合的に評価する。					確認作業	50%
					課 題	25%
					学習意欲	25%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』(2018、伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房)						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. オリエンテーション・社会的養護に求められる専門性			2	9. 社会的養護の課題ー子どもの親・家族への支援と地域支援機能の拡充ー		2
2. 職員・里親研修の現状と施設運営の課題			2	10. 授業のまとめと到達度確認		2
3. 施設養護の実践(1)ー乳児院と児童養護施設ー			2			
4. 施設養護の実践(2)ー児童心理治療施設と児童自立支援施設ー			2			
5. 施設養護の実践(3)ー母子生活支援施設と自立援助ホームー			2			
6. 家庭養護の実践(1)ー里親制度ー			2			
7. 家庭養護の実践(2)ー養子縁組制度ー			2			
8. 社会的養護の展望ーパーマネンシープランニングー			2			
その他				関連科目		
				社会的養護 I		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S16
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
障害児保育 S			講義		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	20	1	前田 基子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
障害児保育に関する基本的知識を身につけ、障害児保育における意義や障害児の特性を踏まえた保育や支援のポイントについて考えることができるようになる。						
授 業 の 概 要						
障害の定義や捉え方、障害児保育の目的や意義、障害の特性を理解する。また、障害児保育・療育の歴史と展開を学ぶとともに、現在、障害がある子どもの様々な保育環境について知り、それぞれの良さや課題、関係性等について考察する。さらに、保育・療育の場における具体的な支援方法や保育者の留意点について理解を深める。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験、テーマに対するレポート、学習意欲（受講態度及び取り組み姿勢）を総合的に評価する。					期末試験	40%
					レポート	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
よくわかる障害児保育 第2版（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			時間数
1. 障害の定義と捉え方			2			
2. 障害児保育の目的と意義			2			
3. 障害児保育・療育の歴史と展開			2			
4. 知的障害の特徴と保育現場での支援			2			
5. 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育現場での支援			2			
6. 注意欠如・多動性障害、学習障害の特徴と保育現場での支援			2			
7. 分離保育と統合保育			2			
8. 障害のある子どもの保育環境や遊び			2			
9. 発達支援の様々な技法			2			
10. 理解到達度確認作業			2			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)					年 度	2023 年度	
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S17	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
子どもの食と栄養 S			講義・演習		子ども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	20	1	末永 美雪		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食、食育の重要性を理解できる。							
授 業 の 概 要							
講義として基礎知識を学び、それを踏まえて調理実習と食育活動を体験する。 保育者として小児に適切な食事を提供できるよう、各時期の栄養法を理解するとともに、調理技能を習得する。 また、効果的な食育を理解し、実践できるスキルを習得する。							
成 績 評 価 の 方 法							
調理実習及び食育への学習意欲・取り組み状況、実習課題や実習記録等を総合的に評価する。					期末試験	50%	
					課 題	40%	
					学習意欲	10%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
テキスト：二見大介・高野 陽 編著『子どもの食と栄養』新版 北大路書房 参考文献『日本食品標準成分表』女子栄養大出版部 菅原 園他 『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
			時間数			時間数	
1 日目				2 日目			
1 時間目	乳児期の授乳栄養について		2	1 時間目	幼児期の食育について		2
2 時間目	調乳実習		2	(絵本を使った効果的な食育)			
3 時間目	離乳栄養について		2	2 時間目	幼児食の調理実習 (お弁当)		2
4 時間目	バランスの良い大人の食事		2	3 時間目	幼児食の調理実習 (お弁当)		2
	調理実習			4 時間目	幼児食の調理実習 (手作りおやつと水分補給)		2
5 時間目	大人の食事から離乳食への展開 調理実習		2	5 時間目	実習記録のまとめ、課題レポート		2
その他			関連科目				

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S18	
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
子育て支援S			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必須	20	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。					
授 業 の 概 要					
保育士の行う子育て支援の特性を理解し、支援の実際や今後の展開を学ぶ。 子育て支援における保育者の役割と職務内容を理解する。 様々な人々との連携した支援方法の基礎を習得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
期末試験の結果、演習課題の評価点、学習意欲（授業態度）を総合評価したうえで決定する。実習課題については、要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。実習課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。				レポート	50%
				課 題	30%
				学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
必要に応じてプリント配布					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1	子育て支援とは	2	6	園内・園外との連携と社会的資源	2
	1.1 授業で学ぶ事柄について			6.1 職員間の連携	
	1.2 子育て支援の制度的基盤			6.2 子育てネットワークの活用	
2	子育て支援の意義	2	7	記録・評価・研修について	2
	2.1 子育て支援が求められる社会的背景		8	様々な子育て支援	4
	2.2 子育て支援において保育所・認定こども園などが果たす役割			8.1 日常会話を活用した子育て支援	
	2.3 子育て支援の独自性			8.2 文書を活用した子育て支援	
3	子育て支援の基本的価値	2		8.3 行事を活用した子育て支援	
4	子育て支援の基本的姿勢	2		8.4 地域子育て支援拠点における支援	
5	子育て支援の基本的技術	2		8.5 入所施設における子育て支援	
	5.1 子育て支援のプロセス		9	8.6 通所施設における子育て支援	
	5.2 子育て支援に役立つコミュニケーション技法			まとめと今後の課題	2
その他			関連科目		
また、子育て家庭に関するニュースや報道に関する事柄に関心を寄せておくこと。					

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-S19
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
劇あそび (指導法) S			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
領域「表現」のねらい・内容や子どもの発達に即した劇遊びの過程を理解し、その援助の方法を考える等、子どもの表現を育てる実践力と指導法を身に着ける。					
授 業 の 概 要					
子どもの発達の側面から劇遊びをとらえ、子どもの立場に立った演習を通して、援助や配慮すること等保育者の役割を考察する。中間発表では互いの発表を見合うことで、工夫点や改善点等意見を出し合い、改善を図っていく。					
成 績 評 価 の 方 法					
学習態度 (意欲・積極性・協同性) 課題 (評価表・授業後レポート) 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					学習態度 50% 課 題 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型こども園保育・教育要領解説 (フレーベル館) プリント、大道具・小道具作りに使う教材					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画グループ					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2	7. グループ活動 (改善・練習)		4
保育における劇遊びとは			9. グループ活動 (リハーサル)		2
2. グループ活動		4	10. 発表		2
シナリオ・配役決め・制作			11. まとめ・反省		2
4. グループ活動 (練習)		2			
5. 中間発表・意見交換		2			
その他			関連科目		
			制作演習 I		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H - S20
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
教育実習事前事後指導S			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	20	2	森主 あゆみ	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎知識が理解できる。 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解できる。 「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。						
授 業 の 概 要						
幼稚園二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な理解の知識を深めていく。①幼児期の発達段階②幼稚園の機能と役割③幼稚園教諭の職務と役割④観察記録の作成方法⑤指導計画の立案補法。						
成 績 評 価 の 方 法						
授業態度（意欲・積極性）・課題 課題については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。課題が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					授業態度	50%
					課 題	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学）						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数	時間数		
1、教育実習で学ぶこと			2			
2、実習生の責任と義務			2			
3、実習の事前学習			2			
4、実習の実際			2			
5、実習の事後学習			2			
6、新型コロナウイルス感染症対策について			2			
7、実習記録作成について			2			
8、日誌、指導案の書き方			2			
9、まとめ			2			
その他				関連科目		

シラバス (授 業 概 要)				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-S21	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
保育内容総論 S			演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	後期	必修	20	1	実務経験のある教員		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
①保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。							
②子どもの発達特性や発達過程を踏まえて、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。							
③保育の多様な展開について具体的に理解する。							
授 業 の 概 要							
保育全体を理解するための資料及び具体的な実践事例等から学び合う。主体的な学びによって「子どもの発達や実態に即した保育内容を考え合う」保育内容の基本的な考え方を理解する。また、保育内容をより豊かにするための「テーマ」を考え、相互に発表し合う。							
成 績 評 価 の 方 法							
授業への取り組み、課題の内容や提出方法、学習態度等を考慮し、総合的に判断し評価する。						レポート	50%
						課 題	30%
						学習意欲	20%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
必要に応じてプリント配布 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
① ガイダンス・授業内容の説明と予定 保育内容総論とは何か			時間数 2	⑥ 領域と保育内容 5領域から保育内容～演習ワークから子ども理解を深める			時間数 2
② 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型こども園教育・保育容量がひもとく保育内容とは何か考える			2	⑦ 保育者の役割と保育内容 (1) 気になる子どもの支援～事例から保育者の役割を考える			2
③ 子どもと保育内容 (1) 子ども理解～演習ワークから考える			2	⑧ 保育者の役割と保育内容 (2) 保護者との連携～事例から保育者の役割を考える			2
④ 子どもと保育内容 (2) 子どもの発達と生活～演習ワークから考える			2	⑨ 保育者の役割と保育内容 (3) 幼保小の連携～事例から考える			2
⑤ 子どもと保育内容 (3) こどもを取り巻く環境～演習ワークから考える			2	⑩ まとめ～今後の保育の課題			2
その他				関連科目			
講義形式だが、授業内におけるグループ討議には積極的に参加をしてほしい。また、子育て家庭に関するニュースや報道に関する事柄に関心を寄せておくこと。				保育内容 (健康) (人間関係) (表現) (環境) (言葉)			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S22	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
教育実習①S			その他		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解できる。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解できる。 幼稚園での1日の教育内容を振り返り、観察記録を作成することができる。					
授 業 の 概 要					
専門教育科目で獲得した幼児教育に対する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために1週間の観察実習・参加実習・部分実習を主とする実習を行うこととする。					
成 績 評 価 の 方 法					
1.実習日誌の記述内容①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想 今後の課題など」の記述内容 2.実習園による評価 3.実習後の事後レポートなどの提出物 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。				実習日誌の記述内容	50%
				実習園による評価	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1.各園実習 以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。 ①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要 ②遊び生活場面での園児の活動		時間数 30	③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応		時間数
その他			関連科目		
参加実習では、指導教員の指導と援助を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。			教育実習②S 教育実習事前事後指導 S		

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-S23	
授 業 科 目 名			授業形態		学 科 ・ コー ス		
教育実習②S			その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	後期	必修	90	3	森主 あゆみ		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解できる。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解できる。 幼稚園での1日の教育内容を振り返り、観察記録を作成することができる 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。							
授 業 の 概 要							
専門教育科目で獲得した幼児教育に対する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために3週間の指導実習を主とする実習を行うこととする。							
成 績 評 価 の 方 法							
1.実習日誌の記述内容①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想 今後の課題など」の記述内容 2. 指導計画の記述内容①「朝の会」「絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間でできる活動」「昼食指導」「帰りの会」の部分実習②「午前の主な活動」「午後の主な活動」の部分実習 3.実習園による評価 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					実習日誌・指導計画の記述容 50% 実習園による評価 50%		
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1.各園実習 1 回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のような学習内容を獲得していく。 ①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導 ②幼稚園教諭としての保育技能の取得および態度の養成			時間数 90	③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解			時間数
その他				関連科目			
担当職員の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加すること				教育実習②S 教育実習事前事後指導 S			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S24	
授 業 科 目 名			授業形態	学科・コース	
保育・教職実践演習 S			講義・演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	20	2	森主 あゆみ
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の習得・コミュニケーション能力を確認する。また、保育者としての使命感と職務内容について再確認する。					
授 業 の 概 要					
保育者として必要な資質能力の習得を確認し、保育の現場ですぐに活用できる技術や知識をワークやロールプレイにより学習する。実習でのエピソード記録を振り返ることで、子どもや保育への思いを再認識し、仲間と共有を図りながら意欲向上につなげる。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題の評価点、学習意欲を総合評価して決定する。 提出物については要求された機能が実現しており、かつ、決められた期日までに提出することが最低条件である。提出物が1つでも未提出であれば、成績の評価は行われない。					課 題 50% 学習意欲 50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
必要なプリントを配布する。					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. オリエンテーション 保育者として必要なこと	時間数 2	6.保育者に必要なソーシャルマナー			時間数 5
2. 保護者理解と支援	2				
3. 子どもと保育のすばらしさ	6				
4. 安全管理	2				
5. 保育者とコミュニケーション	3				
その他			関連科目		
			保育・教育実践演習		

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				科目コード	2023 年度 H-S25
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名			授業形態	学 科 ・ コー ス	
児童文化S			演習	こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必須	20	1	実務経験のある教員
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
パネルシアターの意義や目的など専門的な知識を習得し、子どもの年齢や環境に応じてパネルシアターの選定ができる。 グループ活動でパネルシアターを作成し発表することができる。					
授 業 の 概 要					
児童文化財であるパネルシアターの演じ方、基礎的な技能について習得しグループでパネルシアターをクラス内で発表する。					
成 績 評 価 の 方 法					
グループワークでの発言、積極性、協調性などの授業態度や課題、パネルシアターの完成度、発表内容を総合評価したうえで決定する。					課 題 60% 学習意欲 40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
・児童文化（近畿大学九州短期大学発刊） ・必要な資料をプリント					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1	オリエンテーション 児童文化ふりかえり	時間数 2	3	第1回発表（リハーサル） クラス内で発表、批評	時間数 2
2	オリジナルパネルシアター制作 （グループワーク）	4	4	ふりかえり 修正、練習	4
	2-1 計画作成、経過状況発表	2	5	第2回発表（本番）	2
	2-2 練習	2	6	まとめ	2
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。 ・制作セット（のり、はさみ、テープ、ペン他） 絵の具一式、パネル布、Pペーパー			児童文化		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は4 5分換算					科目コード	H-S26
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
乳児保育ⅡS			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	20	2	森下 みつ美	
授業の目的・到達目標						
・0.1.2 歳児の発育と発達の特徴について理解することができる。 ・保育者として必要な知識と技能の基礎を身につける。						
授 業 の 概 要						
基本教科書に沿って授業を進めていくが、キーワードとなる考え方やワードには補足して説明する。乳児の接し方については、教員が実演したり、学生に実践してもらったりして技能を獲得できるようにする。計画立案や書類作成においては実際に書く機会を設ける。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験、課題（小レポート・課題提出）、学習意欲（授業態度・発表・出欠状況）を総合的に判定し評価する。課題においては、決められた期日までの提出と課題内容に沿ったものであることが求められる。					期末試験	40%
					課 題	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
・はじめて学ぶ乳児保育 同文書院 ・保育所保育指針 ・認定こども園教育保育要領 ※必要なプリントを配布する						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
			時間数			
1. 乳児保育のポイント（接し方、環境、観察）			2			
2. 乳児の衣服・おむつ替えの基礎知識			2			
3. 乳児の授乳・食事の基礎知識			2			
4. 乳児の睡眠の基礎知識			2			
5. 乳児保育における衛生管理			2			
6. 乳児保育における安全管理			2			
7. 連絡帳の書き方			2			
8. 乳児の遊びや玩具			6			
その他				関連科目		
				乳児保育Ⅰ		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2023 年度
時間数は45分換算					科目コード	H-S27
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース	
こどもの健康と安全S			講義・演習		こども保育科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
3	前期	必須	20	1	池ヶ谷 麻紀子	
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標						
保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。 子どもの体調不良に対する適切な対応について、具体的に理解できる。						
授 業 の 概 要						
関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に学ぶ。						
成 績 評 価 の 方 法						
期末試験・課題・学習意欲を総合的に評価する。					期末試験	40%
					課 題	30%
					学習意欲	30%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材						
「よくわかる子どもの保健」（ミネルヴァ書房） 公開されている情報をプリントしたもの						
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画						
1. 保健的観点を踏まえた保健環境及び援助			時間数	2		時間数
2. 保育における健康及び安全の管理			4	9. 健康および安全の管理と実施体制		2
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応			2	10. まとめ		2
4. 感染症対策			2			
5. 保育における保健的対応の基本			1			
6. 個別的配慮を要する子どもへの対応			1			
7. 障害がある子どもへの対応			2			
8. 病児保育と病後児保育、病棟保育			2			
その他				関連科目		

シラバス（授 業 概 要）					年 度		2023 年度	
時間数は45分換算					科目コード		H-S28	
授 業 科 目 名				授業形態		学科・コース		
保育実習Ⅰ（保育所）S				その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	60	2	小笠原 香奈			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのような繋がるか理解することができる。 実践を通じて、保育の技術と能力が向上できる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確率できる。								
授 業 の 概 要								
「保育実習」は、保育資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ②子どもへの理解を深める③保育士の業務内容や理論について学ぶ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める								
成 績 評 価 の 方 法								
実習日誌、事後レポート等の提出物、実習園の評価を総合評価したうえで決定する。						実習日誌の記述内容	50%	
						実習園による評価	30%	
						課題	20%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1.「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。 ①保育所の内容、機能について理解する。 保育所の1日の流れやプログラムの理解等 ②保育所における子どもの理解。 年齢、月例ごとの子どもの発達とその特徴			時間数 60	③保育所における保育者の保育内容、役割などを理解する ④日誌や指導案の書き方を学ぶ			時間数	
その他				関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。 担当保育者の指導や助言に積極的に保育実習に参加すること。				保育実習Ⅰ（施設）S 保育実習ⅡS 保育実習事前事後指導Ⅰ・ⅡS				

シラバス（授 業 概 要）					年 度		2023 年度	
時間数は45分換算					科目コード		H-S29	
授 業 科 目 名				授業形態		学科・コース		
保育実習Ⅰ（施設）S				その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
3	後期	必修	60	2	小笠原 香奈			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 実践を通じて、保育の技術、能力が向上できる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確率できる。								
授 業 の 概 要								
「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害時入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ②子どもや障害者への理解を深める③施設職員の業務内容や修業倫理について学ぶ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める								
成 績 評 価 の 方 法								
実習日誌、事後レポートの提出、実習園による評価を総合評価したうえで総合的に評価する。						実習日誌の記述内容	50%	
						実習園による評価	30%	
						課題	20%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1.「施設実習」では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 ①施設の内容、機能などを理解する。 1日の流れ、子どもや障害者の活動など ②施設職員の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解				時間数 60	③子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する ④日誌の書き方を学ぶ			時間数
その他					関連科目			
担当職員の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること					保育実習Ⅰ（保育所）S 保育実習ⅡS 実習事前事後指導Ⅰ（保育）（施設）S			

シラバス (授 業 概 要)					年 度		2023 年度	
時間数は4 5分換算					科目コード		H-S30	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース			
保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）S			講義・演習		こども保育科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	前期	必修	20	1	小笠原 香奈			
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標								
保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えができる。 指導計画の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着けることができる。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標が明確にできる。								
授 業 の 概 要								
保育実習の全体的な枠組みを理解し、具体的な内容を通して保育実習についての授業を行う。保育所実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。								
成 績 評 価 の 方 法								
課題（事前レポート、事後レポート含む）の評価点、学習意欲を総合的に評価する。							課 題	50%
							学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材								
・ 知りたいときにすぐにわかる 幼稚園・保育園・児童福祉施設等 実習ガイド 同文書院 ・ 保育実習事前指導 近畿大学九州短期大学 ・ 保育所保育指針解説 ・実習の記録と指導案 ひかりのくに								
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画								
1. 保育所実習の全体の流れと諸注意 子どもの発達と注意点			時間数	4				時間数
2. 保育実習の意義・目的・内容について 保育所の 1 日の流れとデイリープログラムの理解				4				
3. 実習記録作成について 実習日誌の書き方 実習記録作成について				12				
その他					関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。					保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）S 保育実習ⅠS 保育実習ⅡS			

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
				科目コード		H-S31	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
保育実習事事前後指導Ⅰ（施設）S			講義・演習		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	前期	必修	20	1	小笠原 香奈		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
施設実習の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えができる。 指導計画の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着けることができる。 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標が明確にできる。							
授 業 の 概 要							
施設実習の全体的な枠組みを理解し、具体的な内容を通して施設実習についての授業を行う。施設実習前にすべき事柄・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。							
成 績 評 価 の 方 法							
課題（事前レポート、事後レポート含む）の評価点、学習意欲を総合的に評価する。						課 題	50%
						学習意欲	50%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
・ 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育園・児童福祉施設等 実習ガイド 同文書院 ・ 保育実習事前指導 近畿大学九州短期大学 ・ 保育所保育指針							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1. 社会福祉施設とは 施設における役割と機能			時間数 4				時間数
2. 施設における保育内容と養護 施設実習に関する基本的理解と諸注意			4				
3. 施設職員（保育士）の役割			4				
4. 実習記録作成について 実習日誌の書き方			8				
その他				関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。				保育実習事事前事後指導Ⅰ（保育）S 保育実習ⅠS 保育実習ⅡS			

シラバス（授 業 概 要）				年 度		2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード		H-S32	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース		
保育実習ⅡS			その他		こども保育科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
3	前期	必修	60	2	小笠原 香奈		
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標							
「保育実習Ⅱ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術が向上できる。 子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズにたいする理解力・判断力を養うことができる。							
授 業 の 概 要							
「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援のとしての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。「また、「保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。							
成 績 評 価 の 方 法							
実習日誌、事後レポートなどの提出物、実習園による評価を総合的に評価する。					実習日誌の記述内容	50%	
					実習園による評価	30%	
					課題	20%	
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材							
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画							
1.「保育実習Ⅱ」では、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。 ①子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。 ②その場の状況に応じた子どもの対応と保育について理解する。 ③問題のある子供や保護者に対する対応について理解する。			時間数 60	④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。 ⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。 ⑥保育士としての自己の課題を明確にする。			時間数
その他				関連科目			
できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。				保育実習Ⅰ（保育所）S 保育実習Ⅱ（施設）S 保育実習事前事後指導S			

シラバス (授 業 概 要)				年 度	
				2023 年度	
時間数は45分換算				科目コード	
				H-S33	
授 業 科 目 名			授業形態		学科・コース
保育実習事前事後指導 IIS			講義・演習		こども保育科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	必修	前期	10	1	小笠原 香奈
授 業 の 目 的 ・ 到 達 目 標					
「保育実習事前事後指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解ができる。 指導計画の作成や記録など保育の実践力が養う。 保育士として自己の課題を明確化できる。					
授 業 の 概 要					
「保育所実習Ⅰ（保育所）」での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅱ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。					
成 績 評 価 の 方 法					
課題（「保育所実習Ⅱ」の実習目標、課題、実習事後レポート）の評価点、学習意欲（発表も含む）を総合評価したうえで決定する。					課題 60% 学習意欲 40%
使 用 テ キ ス ト ・ 教 材					
保育所保育指針解説（フレーベル館）					
授 業 内 容 ・ 授 業 計 画					
1. 保育実習Ⅱの目的・意義について 保護者・家庭への支援と地域社会の連携			時間数 2		
2. 教材研究・指導計画の作成			4		
3. 保育実習Ⅱに向けた、各自の実習目的、 課題、学習計画の作成			2		
4. 保育実習Ⅱを終えて 自己評価と自己課題			2		
その他				関連科目	
				保育実習事後指導ⅠS 保育実習ⅠS 保育実習ⅡS	